

科目名	SES100: 基礎ゼミナール			担当教員	平野 幸治, 丹木 博一, 森下 園, 宮崎 幸江, 飯田 純也, 杉村 美佳, 小林 宏子, 岩崎 明子
開講期	春	分類	必修		
単 位	2	標準受講年次	1年		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要			学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。			

担当教員の 連絡情報	担当教員	研究室	オフィスアワー	連絡先
	平野 幸治	4210	水 2 限・3 限、木 2~4 限	
	丹木 博一	4214	月 3 限、金 2 限	
	森下 園	4202	(春学期) 火 3 限、木 3 限 (秋学期) 火 5 限、木 2 限	
	宮崎 幸江	4217	木 3 限、火 3 限	
	飯田 純也	4216	(春学期) 水 5 限、木 2・3 限 (秋学期) 木 2・3 限、金 2 限	
	杉村 美佳	4220	(春学期) 水 5 限、金 5 限 (秋学期) 火 5 限、金 5 限	
	小林 宏子	4204	火 4 限、木 2 限	
	岩崎 明子	4213	(春学期) 月 2 限、水 2 限、木 2 限 (秋学期) 水 1 限、水 2 限、木 2 限	

キーワード	導入教育、自立と自律、大学生としての学び、プレゼンテーションの方法、ノートの取り方、進路、小論文の書き方、研究倫理
授業の概要	本学の教育理念である“Men and women for others, with others”を目指す学生生活への導入となる授業です。大学での学びに必要なアカデミックスキルを身につけ、将来のキャリア形成を視野に入れた大学生活のプランをたてていきます。
達成目標 (授業の目的)	大学での自律した学びに必要なアカデミックスキルが身につきます。具体的には、さまざまな分野の問題を論じるために必要となる専門的な情報や知識をどのように得て、プレゼンテーションや小論文としてどのように発信していくかを実践しながら学びます。また大学生が知っておくべき研究倫理についても学びます。
到達目標 (学修成果)	学生同士のディスカッション、プレゼンテーションを中心に日本語での発信力を磨きます。また、専任教員による Moodle 上のショートレクチャーや小論文を用いて、ノートテイキング技術や要約の仕方、小論文の書き方を実践的に身につけます。
評価方法	①課題：6%×6回=36%、②Moodle 教材のノートテイキング：4%×3回=12%、③プレゼンテーション：22% (発表 15%、司会 7%)、④小論文作成と発表：30% (小論文 25%、発表 5%)
評価基準	①課題：提出期限・内容と書式の遵守で 6 点、遅れた場合 (翌日まで、以後は受け付けない) マイナス 3 点、内容または書式が守られていない場合はマイナス 2 点 ②ノートテイキング：3つのレクチャーについてきちんとノートをとっている 4 点、そうでない 2 点 ③プレゼンテーション：内容が整理されていて、聞き手にむけて顔をあげてきちんと話している 15 点、内容・提示資料が整理されていない、顔をあげてきちんと話していない場合は各マイナス 5 点、司会：質問が適切で顔をあげてきちんと話している 7 点、質問が不適切、きちんと話していない場合は各マイナス 2 点 ④小論文作成と発表：小論文は論点が明確でパラグラフライティングができており、書式・提出期限を守れば 30 点、論点・パラグラフライティングが不完全、書式・提出期限を守っていない場合は各マイナス 10 点となる。発表は要点をまとめて説明できれば 5 点。なお、欠席した回の課題は提出しても採点対象とはしない。
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	他者のために、他者とともに生きる、自己を知り、自己を確立する、アカデミックスキルと研究倫理について	テキスト1、2章講読、自己紹介、ディスカッション、DVD視聴	本学の三つのポリシーとテキストの学長のメッセージを読む
2	世界に目を向け、異文化に心を開く、ポートフォリオで自主的な学修	DVD視聴、グループディスカッション	テキスト4章講読、課題①視聴 DVD内容の要約
3	学ぶ姿勢を見直そう—大学での学び、ノートの取り方のコツ、スケジュール管理、インターネット・SNS利用上の留意点	DVD視聴、ノートテイキング、グループディスカッション	テキスト5章講読、課題②視聴 DVD内容の要約 400字
4	最初の一步を踏みだそう—質問の仕方、レポート作成時の注意事項、プレゼンの準備、研究倫理について	DVD視聴、グループディスカッション、質疑応答	テキスト6章講読、課題③視聴 DVD内容の要約 400字、ゼミ紹介出席
5	文章のパラグラフ構造—要約と文章の中心文	DVD視聴、グループディスカッション	視聴 DVD内容の論点整理、Moodle教材ノートテイキング①、プレゼンテーションの準備
6	ゼミ選択と進路選択—卒業までの計画、進路決定のために何をするか+プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト7章講読、課題④パラグラフライティング、Moodle教材ノートテイキング②、プレゼンテーションの準備
7	編入への道—編入試験の概要、進学のために何をすべきか+プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト8章講読、Moodle教材ノートテイキング③、プレゼンテーションの準備、ゼミ説明会出席
8	就職への道—働くとはどういうことか、企業は学生に何を求めているのか+プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト9章講読、プレゼンテーションの準備
9	女性のキャリアとライフコース—働く女性の状況、あなたのライフプラン+プレゼンテーション	DVD視聴、ディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト10章講読、課題⑤視聴 DVDの内容要約、プレゼンテーションの準備
10	キャリア・パスを考える—なぜ進学/就職するのか、理由を説明する+プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト11章講読、進路について考えてくる、プレゼンテーションの準備
11	将来の夢を実現するためのリサーチ、情報リテラシー—リサーチプランを作成する	グループディスカッション、情報収集の仕方	テキスト12章、15章講読、小論文のためのリサーチ
12	論点をまとめる—リサーチしたことをグループでシェア、小論文の骨組みをつくる、引用の仕方	グループディスカッション、アウトライン作成	テキスト13章講読、小論文のためのリサーチ、学修ポートフォリオの用紙をダウンロードしてくる
13	小論文を書く—先行研究や得た情報を踏まえてメイン・パラグラフを作成、学修ポートフォリオの書き方	小論文の相互チェック、講評	課題⑥小論文のアウトライン作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	小論文の発表、学修ポートフォリオ作成	グループワーク	小論文作成

テキスト	上智大学短期大学部編『Essentials —A Guide to Finding the Right Career Path for You』
参考書	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)
その他特記事項	アッセンブリーアワーに全専任教員によるゼミ紹介とノートテイキングの説明が1回あるので必ず出席すること。日時・場所については初回授業でお知らせします。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール				担当教員	永野 良博		
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4218	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	現代アメリカ文学、Ernest Hemingway、冰山理論、個人の確立、家族、共同体							
授業の概要	アメリカの作家 Ernest Hemingway による文学作品とそれらに関する研究書や論文を読み、小説の研究に必要な基礎的な知識を身に付けてゆく。多くを語らない抑制された文章を読み、創造的に主題を読み取る。扱われる主題は、個人の確立、家族、友人、恋人、生と死、戦争、伝統とそこからの脱却、社会的マイノリティとの関係、文明と自然、ジェンダー、身体論等。授業では学生同士そして教員との意見交換が中心となる。							
達成目標(授業の目的)	文学作品の登場人物の心理と人間関係を理解し、同時に作品がそれらをどのような形式や文体で描き出すのかを理解することが主な目的である。そして作品が提示する問題をより広い社会や歴史上の問題と関連させて考え、口頭及び文章において論じる力を身に付ける。様々な研究主題とそれらが持つ重要性を理解し、そこから独自の文学論を形成し、最終的には人間性と社会に関して、学生個人として新たな発見をしてゆく。							
到達目標(学修成果)	文学作品と研究資料からメモを取ることから始めて、文学的主题の発見と研究方法の基礎を身に付けることが出来る。同時に日々の気付きと研究成果について、授業で他の学生と討論を重ね、発展させることが出来る。作品と先行研究を十分に理解し、それらに関する自分の意見を発展させて研究ノートにまとめ、独自の主題を設定し、基礎的な学術論文を作成出来る。さらに最終的な研究の成果を効果的に口頭発表出来る。							
評価方法	授業参加 (40%)、研究ノート (30%)、論文 (20%)、論文発表 (10%)							
評価基準	授業参加に関しては事前に資料を読み、理解し、それを基に洞察力と説得力のある自らの意見を発表出来ること。研究ノートでは作品と先行研究に関する十分な理解を示し、それに対する自分独自の意見の記述をする。論文では以上の成果を基に明確で論理的な文学論を書く。論文の発表では、口頭での明確な意見の発表と共に、十分な質疑応答が出来るよう、発表内容に関する補足説明事項や発展的な考えを準備する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Ernest Hemingway 初期短編導入 冰山理論と作品読解に向けて課題説明	講義、意見交換	“The Doctor and the Doctor’s Wife”を読む
2	作品 “The Doctor and the Doctor’s Wife” 父と母、科学と宗教、倫理的行為	意見交換	“The Doctor…,” 研究書、論文を読む
3	作品 “The Doctor and the Doctor’s Wife” 悪の拒絶、異人種との共存	意見交換	“The Doctor…,” 研究書、論文を読む
4	“Soldier’s Home” 失われた世代、破壊と日常、破壊と文明、自己喪失	意見交換	“Soldier’s Home,” 研究書、論文を読む
5	“Soldier’s Home” 虚偽の人生、愛の喪失、伝統的共同体	意見交換	“Soldier’s Home,” 研究書、論文を読む
6	“Cat in the Rain” 他者の欲望と自己の欲望、夫婦の危機	意見交換	“Cat in the Rain,” 研究書、論文を読む
7	“Cat in the Rain” 髪を伸ばすこと、猫が表すもの、父権制	意見交換	“Cat in the Rain,” 研究書、論文を読む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	“Indian Camp” 生と死、通過儀礼、マイノリティー女性の身体、論文作成法	意見交換、講義	“Indian Camp,” 研究書、論文を読む
9	“Indian Camp” 自然、文明、医師の倫理 大学生の研究倫理	意見交換、講義	“Indian Camp,” 研究書、論文を読む
10	“End of Something” 未成熟な恋愛、時間について	意見交換	“End of Something,” 研究書、論文を読む
11	“End of Something” ハードボイルド的文体、 男性間の連帯と女性	意見交換	“End of Something,” 研究書、論文を読む
12	研究発表	口頭発表と質疑応答	発表原稿作成
13	研究発表	口頭発表と質疑応答	発表原稿作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	研究発表	口頭発表と質疑応答 意見交換	発表原稿作成

テキスト	Ernest Hemingway. <i>The Complete Short Stories of Ernest Hemingway</i> (Scribners). アーネスト・ヘミングウェイ『われらの時代・男だけの世界』(新潮文庫) Hemingway に関する研究書及び論文
------	---

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	永野 良博		
開講期	春	開講時限	水4限	研究室	4218	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	現代アメリカ小説、自由意志と主体的な生をめぐる考察、英文読解、小説へのアプローチ							
授業の概要	20世紀後半アメリカのポストモダニズムを代表する Kurt Vonnegut と John Barth による作品と、それらに関連する資料を読み、小説の研究に必要な知識を身に付ける。中心的主題は自由意志及び主体的な生をめぐる考察である。それらを中核に、戦争、生と死、時間、歴史、個人の責任、愛、倫理等の問題を論じる。作品理解を深め、独自の主題発見をし、精読により英文読解力の向上を目指す。学生同士の議論と学生による研究発表が中心となる。							
達成目標(授業の目的)	文学作品の登場人物の心理と彼等の社会、歴史との複雑な関係を理解することが主な目的である。また様々な文学的主题への理解を深め、それらを文学研究者達がどのように論じ、人間性や社会に関する発見へと繋げてきたのか理解してゆく。文学作品の読み取り方、文学に関する研究論文の書き方を習得する。同時に発表力、質問力、そして意見交換を通じた建設的な議論実行力を身に付ける。また文学作品の英文を読み解く力を身に付ける。							
到達目標(学修成果)	登場人物の考えや行動について理解を深め、彼等を取り巻く世界について、出来るだけ多くの主題を読み取り、独自の主題発見が出来る。他の学生との意見交換を通して、自らの議論の問題点や可能性について知り、議論を発展させることが出来る。独自の主題に基づく文学論を作成し、効果的に口頭発表出来る。英語の文学作品の読解を通して比喩的かつ重層的な文章の読解力を伸ばすことが出来る。							
評価方法	授業参加(文学作品に関する議論及び英文読解)(40%)、論文(40%)、研究発表(20%)							
評価基準	授業参加に関しては事前に資料を読み、それを基に洞察力と説得力のある自らの意見を授業で提示出来ること。また他人の意見に対して建設的な意見を与えられること。論文作成では、文学的主题の発見力、独自の意見の構築力、論理的議論発展力が求められる。発表は主題を適切にまとめたレジュメを基に行い、質問に対して、周到な調査と熟考に基づいた答えを与えることが必要。英文読解では文学作品の英文の正確な理解が必要である。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	【Kurt Vonnegut, Slaughterhouse-Five】時間の彷徨、時間と死の概念	資料講読、意見交換	小説第1章-2章 ハンドアウト pp.1-3
2	第二次世界大戦、少年期再訪、復讐、死の予告	資料講読、意見交換	小説第3章-4章 ハンドアウト pp.4-6
3	決定論と自由意志、個人の歴史への関わり、宇宙の終末、予定説	資料講読、意見交換	小説第5章-6章 ハンドアウト pp.7-9
4	カルヴィニズム、ナチスへの徹底抗戦、不条理な死、ドレスデン爆撃の記憶	資料講読、意見交換	小説第7章-8章 ハンドアウト pp.10-12
5	飛行機墜落事故と不条理な死、妻への愛、空想科学小説、自己と世界の再創造	資料講読、意見交換	小説第9章-10章 ハンドアウト pp.13-16
6	主題分析まとめ、論文作成法、大学生の研究倫理	資料講読、意見交換、講義	小説全体を復習 ハンドアウト p.17
7	【John Barth, The End of the Road】自己喪失、選択不可能状態	資料講読、意見交換	小説第1章-3章 ハンドアウト pp.18-20

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	実存主義、相対主義的世界に関する議論、 内在的価値の否定	資料講読、意見交換	小説第4章-5章 ハンドアウト pp.21-23
9	個人が独自の価値観と視点を持ち一貫性を 保持すること、愚かさに関する議論	資料講読、意見交換	小説第6章-7章 ハンドアウト pp.24-26
10	古き自己の放棄、個人の独自性、真正なる 個人、姦通と動機の不在	資料講読、意見交換	小説第8章-9章 ハンドアウト pp.27-29
11	神話療法、原因の探求、行動の結果への責 任、個人と主体、主題分析まとめ	資料講読、意見交換	小説第10章-12章、全体を 復習 ハンドアウト pp.30-34
12	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
13	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	研究発表	発表、質疑応答、意見 交換	研究発表準備

テキスト	Kurt Vonnegut. <i>Slaughterhouse 5</i> (Dell). カート・ヴォネガット『スローターハウス 5』(ハヤカワ書房) John Barth. <i>The End of the Road</i> (Anchor). ジョン・バース『旅路の果て』(白水社) ハンドアウト
参考書	巽孝之監修『現代作家ガイド6 カート・ヴォネガット』(彩流社) 諏訪部浩一『カート・ヴォネガット ト라우マの詩学』(三修社) トマス・ピンク『哲学が分かる 自由意志 (A VERY SHORT INTRODUCTION)』(岩波書店) ジャン=ポール・サルトル『実存主義とは何か』(人文書院)

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	永野 良博		
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4218	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	アメリカ小説の自律的研究、独自の主題の発見とそれへのアプローチ							
授業の概要	アメリカ小説を第一次資料とし、小説に学生自らが興味を持つ主題を関連させながら研究を進め、その成果を報告し、討論を行い、研究論文を作成する。学期前半には学生が研究対象として選択した小説の意義とその後に追求する研究課題を口頭発表により明らかにする。それを基に、多様な第二次資料の読解と理解を基に研究を発展させ、その成果を発表し、論文にまとめる。学生同士の議論そして学生による研究発表が中心となる。							
達成目標(授業の目的)	文学作品の登場人物の心理と彼等の社会、歴史との複雑な関係を十分に理解し、自らの議論を構築してゆくことが主な目的である。様々な文学的主題に慣れ親しみ、それらを文学研究者達がどのように論じ、人間性や社会に関する発見へと繋げてきたのか理解する。春学期に修得した知識を活かし、より幅広く調査、研究を行い、自らの研究主題を発展させ、学期末に充実した研究論文としてまとめる。また文学作品の英文を読み解く力を身に付ける。							
到達目標(学修成果)	登場人物の考えや行動について理解を深め、彼等を取り巻く世界について、多くの主題を読み取り、独自の課題発見を基に主題設定することが出来る。他の学生との意見交換を通して、自らの議論の問題点や可能性について知り、議論を発展させることが出来る。独自の文学論を作成し、それを効果的に口頭発表し、充実した研究論文を提出する。英語の文学作品の読解を通して比喩的かつ重層的な文章の読解力を伸ばすことが出来る。							
評価方法	授業参加(文学作品に関する議論)(20%)、論文(50%)、研究発表(30%)							
評価基準	授業参加に関しては事前に資料を読み、それを基に洞察力と説得力のある自らの意見を授業で提示出来ること。また他人の意見に対して建設的な意見を与えられること。論文作成では、文学的主題の発見力、独自の意見の構築力、論理的議論発展力、そして人間性や社会について新たな発見を示すことが求められる。発表は主題を適切にまとめたレジュメを基に行い、質問に対して、周到な調査と熟考に基づいた答えを与えることが必要である。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	論文作成の方法、大学生の研究倫理	講義、質疑応答	ハンドアウトを読む
2	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成
3	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成
4	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成
5	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成
6	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成
7	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成
9	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成
10	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成
11	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成
12	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成
13	研究対象となる作品、研究課題の発表	発表、質疑応答	発表準備に関わる資料読解、資料作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	論文最終報告	発表、質疑応答	論文最終確認

テキスト	学生が各自第一次資料及び第二次資料を選ぶ。また学生が研究発表用の資料を授業で配布する。その他、担当教員が論文作成や発表に関わる資料を必要に応じて配布する。
-------------	---

科目名	SES150: プレ・ゼミナール				担当教員	平野 幸治		
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4210	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	曖昧さ (ambiguity)、成熟 (maturity)、不寛容 (intolerance)、和解 (reconciliation)							
授業の概要	プレゼミでは 20 世紀の前半のイギリス作家 E.M. フォスターの作品を取り上げ、文学の文学研究の専門用語と概念が理解できるように授業を展開する。テキストや DVD を使用して分析のポイントを考察し、特にプロット展開とどう結びつくのかを理解する。小グループに分かれて文学研究や作品研究の方法や読者としての主体性の在り方を討論し、学期末にはグループワークによる成果を協力して発表する。							
達成目標(授業の目的)	学生は、E.M. フォスターの小説『ハワーズ・エンド』と『眺めの良い部屋』、批評『小説の諸相』から、文学研究の専門用語と概念が理解できることを主眼に、特に彼の作品の持つ個別性と汎用性に着目し、小グループに分かれて互いに意見を出し合い、彼の作品の今日的意義について討議する。また William Shakespeare の作品を用いて、専門研究の知識と手順の手がかりを身につけ、学期末にはグループワークの発表を行う。							
到達目標(学修成果)	①学期末に学生は、作品の要約や意見が的確な英語で書けるようになる。②グループで意見を出し合い、自分の意見を相対化することができるようになる。③グループワークによって研究の知識と手順の手がかりを身につけ、グループで発表できるようになる。④研究者としての倫理を踏まえ引用を用いた 3,000 字程度の日本語のレポートが書けるようになる。発問の仕方、作品研究の方法と英文学の知識を獲得できる。							
評価方法	①毎回の授業で回収する shuttle card の英語で述べる観点 (2%×14 回=28%)。②グループディスカッション終了時にグループ内の書記がフォームに記入しその成果を発表する観点 (5%×4 回=20%)。③グループワークの成果をプレゼンテーション (10 分程度の発表) する観点 (11%×2 回=22%)。④各自の発表を研究者としての倫理を踏まえたレポート (3,000 字程度の日本語の文章) を学期末に提出する観点 (30% : レポート 20%+アブストラクト提出 10%)。							
評価基準	評価基準の詳細は授業の初回時に説明します。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	イントロダクション: E.M. フォスターの文学的意義と research について	講義とプロット・サマリーの説明	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
2	E.M. フォスターの作品研究『ハワーズ・エンド』: 描写の「曖昧さ」の意義	講義とプロット・サマリーの説明	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
3	E.M. フォスターの作品研究『ハワーズ・エンド』: 描写の「曖昧さ」の多様性	②-1 グループディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
4	作品研究『ハワーズ・エンド』: 登場人物内面の変化、特に不寛容について	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
5	作品研究『ハワーズ・エンド』: 登場人物内面の展開、特に和解について	②-2 グループディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
6	作品研究『ハワーズ・エンド』: 比喩の持つ意義	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
7	作品研究『ハワーズ・エンド』の③-1 グループ・ワークの発表と講評	③-1 グループ・ワークの発表と講評	発表原稿の整理とレジュメの作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	E.M. フォスターの作品研究『眺めの良い部屋』: 語り手の「曖昧さ」の意義	講義とプロット・サマリーの説明	プリント(1500wds)の下調べおよびDVDを視聴
9	E.M. フォスターの作品研究『眺めの良い部屋』: 語り手の「曖昧さ」の効果	②-3 グループディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
10	作品研究『眺めの良い部屋』: 登場人物内面の変化と展開	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリント(1500wds)の下調べおよびDVDを視聴
11	作品研究『眺めの良い部屋』: 登場人物内面の変化、特に成熟について	②-4 グループディスカッションと発表	ノートの整理とレジュメの下調べと資料整理
12	E.M. フォスターの作品研究『眺めの良い部屋』の③-2 グループ・ワークの発表	③-2 グループ・ワークの発表と講評	発表原稿の整理とレジュメの作成
13	William Shakespeare の作品研究と研究者としての倫理構築と plagiarism	④レポートの提出と講義	原稿の整理とプリント(1500wds)の下調べ
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	④レポートの返却と講評	グループディスカッションと講評	ノートの整理

テキスト	Jonathan Bate. <i>English Literature: A Very Short Introduction</i> (OUP). 喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』(岩波新書)
参考書	河合祥一郎『シェイクスピア: 人生劇場の達人』(中公新書) <i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	平野 幸治		
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4210	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	曖昧さ (ambiguity)、比喩 (metaphor)、共感 (empathy)、和解 (reconciliation)							
授業の概要	文学研究の専門用語が理解できるように、現代のイギリス作家 Kazuo Ishiguro の作品研究の成果を活かし、彼の作品の持つ個性性と汎用性を考慮して授業を展開する。テキストを使用して分析のポイントを考察し、特にプロット展開とどう結びつくのかを理解する。また小グループに分かれて文学研究や作品研究の方法や読者としての主体性の在り方を討論し、学期末にはグループワークによる成果を協力して発表する。							
達成目標 (授業の目的)	学生は、Kazuo Ishiguro の文学作品『日の名残り』、『私を離さないで』、『忘れられた巨人』から、文学研究の専門用語と概念が理解できるようになる。特に彼の作品の持つ個性性と汎用性に着目し、小グループに分かれて互いに意見を出し合い、彼の作品の今日的意義について討議する。また William Shakespeare の劇『リア王』を用いて、専門研究の知識と手順の手がかりを身につけ、学期末にグループで発表の準備をする。							
到達目標 (学修成果)	学期末には学生は、プロット・サマリーや DVD の視聴に基づき作品についてグループ・ディスカッションや 10 分程度の発表ができるようになる。他者の意見を聞くことによって自己の考えを相対化し、意見を修正し、その成果に基づいて十分な具体例や作品からの引用を用いて論理的に 3,000 語程度の日本語の文章が書けるようになる。							
評価方法	①グループ・ディスカッション終了時に専用フォームにグループ内の書記が記入しその成果を発表する (5%×4 回=20%)。②グループワークの成果をプレゼンテーション (10 分程度の発表) する観点 (12%×2 回=24%)。③グループ・ワークのプレゼンテーションをした後で、各自の発表のレポートを学期末に提出する (28%)。④毎回の授業の終了時に回収する Shuttle card に授業に関する質問や意見をきちんとした日本語で述べる (2%×14 回=28%)。							
評価基準	評価基準の詳細は授業の初回時に説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	イントロダクション: 授業の進め方と Kazuo Ishiguro の文学的意義について	講義とプロット・サマリーの説明	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
2	Kazuo Ishiguro の作品研究『日の名残り』: 語り手の「曖昧さ」の意義と効果	①A グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理
3	Kazuo Ishiguro の作品研究『日の名残り』: 登場人物内面の変化と展開	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
4	Kazuo Ishiguro の作品研究『日の名残り』: 内面の変化、特に共感について	①B グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理
5	Kazuo Ishiguro の作品『日の名残り』の ②-1 グループ発表と講評	ディスカッションを踏まえた講義	②-1 グループ発表原稿の整理と YouTube 視聴 (90 分)
6	Kazuo Ishiguro の作品研究『私を離さないで』: 語り手の「曖昧さ」の意義と効果	講義とプロット・サマリーの説明	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
7	Kazuo Ishiguro の作品研究『私を離さないで』: 登場人物内面の変化と展開	①C グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理と YouTube 視聴

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	Kazuo Ishiguro の作品研究『私を離さないで』: 内面の変化、特に和解について	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリント(1500wds)の下調べおよびDVDを視聴
9	Kazuo Ishiguro の『私を離さないで』の ②グループ発表	発表と質疑応答	発表原稿の整理 YouTube 視聴(90分)
10	Kazuo Ishiguro の作品研究『忘れられた巨人』: 語り手の「曖昧さ」の意義と効果	講義とプロット・サマリーの説明	プリント(1500wds)の下調べ
11	Kazuo Ishiguro の作品研究『忘れられた巨人』: 登場人物内面の変化と展開	①Dグループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理
12	Kazuo Ishiguro の『忘れられた巨人』の ②-2グループ発表と講評	発表と質疑応答と講評	②-2グループ発表原稿の整理
13	William Shakespeare 『リア王』の発表の準備と研究倫理や plagiarism について	講義とプロット・サマリーの説明	③レポートの提出準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Kazuo Ishiguro の世界と③レポートの返却と講評	返却、講評とディスカッション	ノートの整理

テキスト	Stanley Wells. <i>William Shakespeare: A Very Short Introduction</i> (OUP). プリント配布
参考書	D. ロッジ、柴田元幸・斉藤兆史訳『小説の技巧』(白水社) S. Barnet & W. Cain. <i>A Short Guide to Writing about Literature</i> (Pearson).

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	平野 幸治		
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4210	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	ambiguity (曖昧さ), metaphor (比喩), intolerance (不寛容さ), reconciliation (和解)							
授業の概要	前半は、William Shakespeareの劇を取り上げて、文学研究の専門用語と概念が理解できるように授業を展開する。悲劇および喜劇をそれぞれ一つ取り上げて扱い、グループでそれぞれの劇のテーマと演出の効果についてディスカッションをする。後半は、 <i>The Hours</i> を取り上げて、映像と文学の観点から考察する。学期末にはゼミ論文を完成し、口頭発表をする。発問の仕方、回答の仕方と文学の知識を日常的に検証する。							
達成目標(授業の目的)	学期前半はゼミナールⅠで獲得した文学研究の方法論をWilliam Shakespeareの劇の考察に応用し、劇のテーマと演出の効果についてグループで討議し発表してもらう。普遍性と固有性についてShakespeareを理解する。後半は、映像と文学という観点から <i>The Hours</i> を扱い、Virginia Woolfという作家の問題意識と先進性に焦点を当てる。学生の知的興味を刺激して、期末にはゼミ論文を完成し、口頭発表ができるよう指導する。							
到達目標(学修成果)	学期末に学生は、ゼミ論文を完成し、発表ができるようになる。Shakespeareの特徴を理解し、Virginia Woolfの問題意識と先進性を把握し、①ディスカッションによって問題意識と発問のスキルを獲得できるようになる。②グループで発表できるようになる。③研究者としての倫理を踏まえ、英語のabstractを付した5,000字の論文が書けるようになる。④発問の仕方、知識を検証する習慣が身に付くようになる。							
評価方法	①ディスカッション終了時にグループ内の書記が記入しその成果を発表する(5%×3回=15%)。②学期末にグループワークの成果をプレゼンテーションする(27%:発表15%+レジュメ提出12%)。③研究者としての倫理を踏まえたゼミ論文(5,000字程度の日本語)を学期末に提出(30%:アウトライン報告5%+ゼミ論文の中間発表5%+提出20%)。④授業の終了時に回収するShuttle cardに発問の仕方、知識を検証する習慣を英語で述べる(2%×14回=28%)。							
評価基準	評価基準は授業の初回に詳しく説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	William Shakespeareの悲劇 <i>Othello</i> と喜劇 <i>Pericles, Prince of Tyre</i> 研究の意義	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよびDVDの視聴
2	悲劇 <i>Othello</i> の作品研究の方向性について	①-1 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
3	喜劇 <i>Pericles, Prince of Tyre</i> の作品研究の方向性について	①-2 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
4	<i>Othello</i> と <i>Pericles, Prince of Tyre</i> の作品研究(1)と③ゼミ論文のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
5	<i>Othello</i> と <i>Pericles, Prince of Tyre</i> の作品研究(2)と③ゼミ論文のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
6	<i>Othello</i> と <i>Pericles, Prince of Tyre</i> の作品研究(3)と③ゼミ論文のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	③ゼミ論文のアウトライン報告と研究者としての倫理構築と plagiarism	発表と質疑応答および講義	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
8	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究の相関性について	講義とプロット・サマリーの説明	プリント(2000wds)の下調べおよびDVDの視聴
9	③ゼミ論文の中間発表(全員)および講評	発表と質疑応答および講評	発表用の原稿作成と資料整理
10	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究(1): 内面、特に不寛容について	講義とプロット・サマリーの説明	プリント(2000wds)の下調べおよびDVDの視聴
11	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究(2): 内面、特に和解について	①-3 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
12	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究(3): 登場人物の成熟について	ディスカッションを踏まえた講義	プリント(2000wds)の下調べおよびDVDの視聴
13	②グループワークの成果の発表・レジュメ提出と講評	②発表の講評と③論文の回収	③ゼミナール論文の提出準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	②レジュメの返却および③ゼミナール論文の返却と講評	論文の返却と公表、ディスカッション	ノートの整理

テキスト	Stanley Wells. <i>Shakespeare: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press). 喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』(岩波新書)
参考書	D. ロッジ、柴田元幸・斉藤兆史訳『小説の技巧』(白水社) S. Barnet & W. Cain. <i>A Short Guide to Writing about Literature</i> (Pearson).

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	近藤 佐智子	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4208	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	社会言語学、語用論、言語のバリエーション、言語と文化、英語教育							
授業の概要	私たちは、住んでいる地域、文化、年齢、ジェンダー、職業といった様々な社会的要因によって、異なる話し方をする。また、場面や相手によって巧みに話し方を変えるということも日常的に行っている。このゼミでは、主に英語と日本語について、このような社会と言語のダイナミックな関係について基礎知識を得る。社会言語学の基礎文献を読み、その内容をまとめ、発表し、ディスカッションをする力をつける。							
達成目標(授業の目的)	社会言語学に関する基礎的知識を得ることを目標とする。社会言語学の理論やこれまでの研究内容を理解し、私たちの日々のことばの使用とどのような関係があるのかを考察する力をつける。また、得た知識を発表することによって効果的に他者に伝えることができるようになる。							
到達目標(学修成果)	まず日本語の文献を読むことによって、分析的な思考能力、読んだものをまとめる力、レジメを作成する力、相手に効果的に伝わる発表をする力、疑問点を追求し議論をする力をつけることを目標とする。最終的には英語で書かれた社会言語学の専門的文献を理解し、日本語で要約できることを目標とする。また、課題のレポート作成によって、文献研究の行い方を学ぶ。							
評価方法	授業時の積極参加(20%)、発表(30%)、レポート(30%)、要約の提出(20%)							
評価基準	<p>授業時の積極参加(20%)：授業への参加度、ディスカッションにおける発言の質と量</p> <p>発表(30%)：レジメの構成、レジメの内容が的確に要点を捉えているかどうか、発表の内容(理解して発表しているか、分かりやすく伝えることができたかどうか)、発表の態度(声の大きさ、話し方など)</p> <p>レポート(30%)：複数の文献を読み、引用などの規則を適切に守り、論理的にレポートが構成されているか、レポートの内容が的確に要点を捉えているかどうか、自分の考えが明確に述べられているかどうか</p> <p>要約の提出(20%)：日本語教科書各章の要約の提出(内容のポイントを捉えているかどうか、全回提出したかどうか)、英語文献の要約の提出(英語が理解できているか、内容のポイントを捉えているかどうか)</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	導入(社会言語学とは、授業の運営方法、発表とレジメの作成方法、要約の仕方)	講義	教科書1-15頁読む
2	地域による言語の違い	学生の発表 ディスカッション	教科書19-36頁読み要約 発表者はレジメ作成
3	言語と社会階級	学生の発表 ディスカッション	教科書37-51頁読み要約 発表者はレジメ作成
4	人種、民族による言語差	学生の発表 ディスカッション	教科書52-65頁読み要約 発表者はレジメ作成
5	言語の性差	学生の発表 ディスカッション	教科書66-82頁読み要約 発表者はレジメ作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
6	言語の年齢差	学生の発表 ディスカッション	教科書 83-95 頁読み要約 発表者はレジメ作成
7	言語の状況差と適切さ	学生の発表 ディスカッション	教科書 96-112 頁読み要約 発表者はレジメ作成
8	呼びかけ表現・ことばによる丁寧表現	学生の発表 ディスカッション	教科書 113-140 頁読み要約 発表者はレジメ作成
9	ことばのイメージ・会話スタイル	学生の発表 ディスカッション	教科書 141-175 頁読み要約 発表者はレジメ作成
10	含意と文化・非言語伝達	学生の発表 ディスカッション	教科書 176-204 頁読み要約 発表者はレジメ作成
11	社会言語学と英語教育、英語文献の読み方、レポートの書き方、研究倫理教育	学生の発表、講義 ディスカッション	教科書 205-212 頁読み要約 発表者はレジメ作成
12	What do sociolinguists study?	英語文献精読演習 ディスカッション	英語テキスト 1-3 頁精読し要約、レポート作成
13	What are the different ways we say things?	英語文献精読演習 ディスカッション	英語テキスト 4-16 頁精読し要約、レポート作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	総括	ディスカッション	レポート提出

テキスト	田中春美・田中幸子(編著)『社会言語学への招待』(ミネルヴァ書房) J. Holmes and N. Wilson. <i>An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition</i> (Routledge).
参考書	中尾俊夫ほか(著)『社会言語学概論:日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』(くろしお出版) 田中春美・田中幸子(編著)『よくわかる社会言語学』(ミネルヴァ書房)
その他 特記事項	11回目~13回目の3回の授業は英語での予習・復習が必要 言語学概論を履修済か履修中が好ましい

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	近藤 佐智子		
開講期	春	開講時限	水4限	研究室	4208	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	社会言語学、語用論、言語のバリエーション、言語と文化、ポライトネス							
授業の概要	主に英語と日本語を対象に、社会と言語のダイナミックな関係を社会言語学および語用論の観点から研究する。これまでに構築されてきた理論、研究方法、研究結果について英語で書かれた文献を読み概観し、具体的な事象に照らし合わせて先行研究の妥当性についてディスカッションを行う。学期の最後には各自選択したテーマについて文献研究を行い論文にまとめる。							
達成目標(授業の目的)	社会の中で言語がどのように使用されているのかを分析できるようになるために、社会言語学および語用論の理論および先行研究の内容を理解し、それらの研究結果が妥当であるかどうかを判断できるようになる。幅広い文献を使って研究ができるようになるために、英語で書かれた専門書を読む力をつける。各自選択したテーマについて秋学期に実証研究を行う素地を作るために、文献研究を行う。							
到達目標(学修成果)	英語の専門書を読み、要約や発表用レジメを作成し、内容を日本語で口頭発表することができるようになる。理論、専門用語、先行研究の内容を理解し、具体例をあげて説明やディスカッションができるようになる。各自が選択したテーマに沿った文献を探し、読み、論文の形式でまとめることができるようになる。							
評価方法	文献研究論文(30%)、発表(30%)、要旨の提出(30%)、授業時の積極参加(10%)							
評価基準	<p>文献研究論文(30%) 複数の文献を読み、引用などの規則を適切に守り、論理的に論文が構成されているか。論文の内容が的確に要点を捉えているかどうか。自分の考えが明確に述べられているかどうか。</p> <p>発表(30%) レジメの構成、レジメの内容が的確に要点を捉えているかどうか。発表の内容(理解して発表しているか、分かりやすく伝えることができたかどうか)、発表の態度(声の大きさ、話し方など)</p> <p>要旨の提出(30%) 教科書各章の要約の提出(内容のポイントを捉え疑問点を明記しているかどうか、全回提出したかどうか)</p> <p>授業時の積極参加(10%) 授業への参加度、ディスカッションにおける発言の質と量</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	導入 Regional and social dialects	講義、学生の発表 ディスカッション	教科書 139-166 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
2	Gender	学生の発表 ディスカッション	教科書 167-182 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
3	Age	学生の発表 ディスカッション	教科書 183-193 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
4	Ethnicity and social networks	学生の発表 ディスカッション	教科書 194-213 読み日本語要約、発表者はレジメ作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
5	Language change	学生の発表 ディスカッション	教科書 214-245 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
6	Style, context and register: addressee, accommodation theory	学生の発表 ディスカッション	教科書 255-265 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
7	Style, context and register: class, style in non-Western societies, register	学生の発表 ディスカッション	教科書 266-292 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
8	個人研究の進め方: 文献の探し方、文献研究論文の書き方、研究倫理教育	講義、演習	個人テーマの論文作成(論文提出日まで継続)
9	Speech functions, politeness and cross-cultural communication	学生の発表 ディスカッション	教科書 293-311 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
10	Linguistic politeness in different cultures	学生の発表 ディスカッション	教科書 312-321 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
11	Gender, politeness and stereotypes	学生の発表 ディスカッション	教科書 322-345 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
12	Sexist language	学生の発表 ディスカッション	教科書 346-358 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
13	Language, cognition and culture	学生の発表 ディスカッション	教科書 359-384 読み日本語要約、発表者はレジメ作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	研究報告(論文の内容と秋学期の実証研究の計画)	学生の発表 ディスカッション	論文提出、発表準備

テキスト	J. Holmes and N. Wilson. <i>An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition</i> (Routledge). 田中典子『はじめての論文: 語用論的な視点で調査・研究する』(春風社)
参考書	飯野公一ほか『新世代の言語学—社会・文化・人をつなぐもの』(くろしお出版) 岡本真一郎『ことばのコミュニケーション—対人関係のレトリック』(ナカニシヤ出版)
その他特記事項	英語の予習、復習が必要である。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	近藤 佐智子	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4208	オフィスワー P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-④	
キーワード	社会言語学、語用論、言語のバリエーション、言語と文化、会話分析、実証研究						
授業の概要	ゼミナールⅠで得た社会言語学および語用論に関する知識を基に、個人で研究テーマを設定し、実際に調査研究を行い、成果を「ゼミ論文」としてまとめ、口頭でも発表する。その過程で論文の書き方、研究倫理、調査方法、分析方法、発表方法について学び、論文の完成に向けて段階的に準備を行う。						
達成目標(授業の目的)	言語の分析能力を身に付けるために、学生は自ら実証研究を行い、その研究の妥当性や先行研究との関連を判断できるようになることを目標とする。また、他の学生の研究発表を聞き、ディスカッションをすることによって、論理的思考をし、論理的に他者を説得することができるようになる。						
到達目標(学修成果)	社会言語学や語用論の理論や先行研究をふまえて、実証研究ができるようになる。研究にあたっては、先行研究論文を批判的に読み、仮説が検証できるような研究計画を立て、データを分析し、その結果を先行研究結果と比較考察し、結論を導き出すことができるようになる。また、論理的に文章を組み立てて論文を書き、その内容を効果的な視覚的補助を用いて発表することができるようになり、他者の発表に対しても分析的な発言ができるようになる。						
評価方法	実証研究論文(40%)、発表(30%)、4回の発表のレジメ提出(20%)、授業時の積極参加(10%)						
評価基準	<p>実証研究論文(40%) テーマや仮説の設定が適切か、仮説が検証できる調査方法か、データ分析が適切か、研究結果が論理的に説明できているか、研究結果を先行研究と比較して検証しているか、定められた書式にそって書かれているか</p> <p>発表(30%) 読んだ論文の報告、中間発表(1)、中間発表(2)、最終発表、の計4回の発表 発表の内容(理解して発表しているか、分かりやすく伝えることができたかどうか、的確に要点を捉えているかどうか)、発表の態度(声の大きさ、話し方などが効果的か)</p> <p>4回の発表のレジメ提出(20%) 読んだ論文の報告、中間発表(1)、中間発表(2)、最終発表、の計4回の発表レジメの提出(内容のポイントを捉えているかどうか、全回提出したかどうか)</p> <p>授業時の積極参加(10%) 授業への参加度、ディスカッションにおける発言の質と量</p>						
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	研究の進め方、研究倫理教育、読んだ論文の内容発表	講義、学生の発表 ディスカッション	各自論文を1本読み発表の準備、個人研究データ分析
2	研究中間報告発表(1)グループA	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
3	研究中間報告発表(1)グループB	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
4	研究中間報告発表(1) グループC	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
5	研究中間報告発表(2) グループA	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
6	研究中間報告発表(2) グループB	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
7	研究中間報告発表(2) グループC ゼミ論文作成 グループ	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備、ゼミ論文作成
8	最終研究発表 ゼミ論文作成 グループ①	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、ゼミ論文作成
9	最終研究発表 ゼミ論文作成 グループ②	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、ゼミ論文作成
10	最終研究発表 ゼミ論文作成 グループ③	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、ゼミ論文作成
11	最終研究発表 グループ④	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、ゼミ論文初稿提出
12	論文講評、論文修正、abstractの書き方	講義 論文修正	ゼミ論文の直し
13	論文修正	講義 論文修正	ゼミ論文の直し
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	総括	ディスカッション	ゼミ論文最終稿提出

テキスト	田中典子『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』(春風社) プリント『論文テーマの決定と仮説の立て方』『論文の書き方』
参考書	『近藤ゼミ論文集』

科目名	SES150: プレ・ゼミナール				担当教員	丹木 博一		
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4214	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	哲学、倫理学、人間のいのちの意味							
授業の概要	人間のいのちについてどのような問いや関心が自分のうちに息づいているかをはっきりと自覚し、その問いを哲学的に練り上げ、考察した内容を分かりやすくグループ発表ができるようにする。ディスカッションを通して各自の研究テーマを明確にし、そのテーマについてどうすれば考えを推し進めていくことができるかを学ぶ。							
達成目標(授業の目的)	哲学及び倫理学の分野における基礎的な研究姿勢を養うことが達成目標である。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> 互いにディスカッションを通して、理解を深めていく醍醐味を味わうことができる。 文献検索の方法や文献読解の手順を学び、問題を提起し探求する姿勢を身につける。 グループのメンバーと協力して発表を準備し、研究発表の手法を学ぶ。 自分の研究テーマについて小論文の形で論述展開することができる。 							
評価方法	提出課題(18%=2%×9回)、授業参画(14%=1%×14回)、グループ発表(20%)、期末課題(2,500字以上のレポート)(48%)							
評価基準	<p>提出課題：事前に指示した通り課題を行い提出したかどうか。</p> <p>授業参画：毎回の授業中の意見交換に積極的に参加しているかどうか。</p> <p>グループ発表：グループワークを通して研究関心を練り上げ、問いを提起し、その問いについて適切な文献を選び、それを正確に読解した上で、その内容の紹介とグループによる独自の考察を加えて、分かりやすく発表できるかどうか。</p> <p>期末課題：複数の参考文献を読み、関心を寄せるテーマについて問いを提起し、先行研究を理解した上で、理由を挙げて自分の考えを論じることができるかどうか。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション	講義 自己紹介	自己紹介の準備。夏休み課題(ブックノート)の提出。
2	研究方法の紹介・文献検索及び文献読解の方法・研究倫理	講義	教科書①第1章を読み、ポイントを要約して提出。
3	各自の関心の確認とグループ分け	講義・グループ分け グループ作業	自分の研究関心に叶う文献を探し書誌データを記し提出。
4	グループごとの研究テーマの練り上げ テキスト批評の仕方を学ぶ	講義 グループ作業	教科書①第2章を読み、ポイントを要約して提出。
5	『星の王子さま』講読・テキスト批評	講義・ディスカッション・エクササイズ	教科書②pp.7-94を読み、重要ポイントを要約し提出。
6	『星の王子さま』講読・テキスト批評	講義・ディスカッション・エクササイズ	教科書②pp.94-137を読み、重要ポイントを要約し提出。
7	研究事例の紹介 グループ発表の仕方についての説明	講義 グループ作業	グループごとに研究の概要を提示する。
8	グループ発表	グループ発表 質疑応答・講評	発表の準備。ブックレポート。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	グループ発表	グループ発表 質疑応答・講評	発表の準備。ブックレポート。
10	グループ発表	グループ発表 質疑応答・講評	発表の準備。ブックレポート。
11	グループ発表	グループ発表 質疑応答・講評	発表の準備。ブックレポート。
12	グループ発表の振り返り 個人研究への導入	講義・小論文作成のエクササイズ	個人研究のテーマと問題意識をまとめて提出。
13	研究レポート(小論文)作成の手順を学ぶ	講義・小論文作成のエクササイズ	教科書①第3章を読む。小論文の構成を模式図にして提出。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held (定期試験期間内に小論文提出)			
14	小論文へのコメント ゼミ I に向けてのエクササイズ	講義・エクササイズ	教科書①をもう一度読み直しておく。

テキスト	① 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会) ② サンテグジュペリ『星の王子さま』(池澤夏樹訳)(集英社文庫)
参考書	授業内で適宜指摘する。
その他特記事項	テキストをていねいに読み進めようとする熱意と、自分の考えを練り上げ、わかりやすく伝えようとする粘り強さが求められる。分からないことや要望などがあれば、遠慮せず問い合わせること。

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	丹木 博一		
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4214	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	哲学、倫理学、人間のいのちの意味、人間の尊厳							
授業の概要	哲学及び倫理学の分野に関する諸問題について、学生が自らテーマを選び、研究を進める。古典を読む力を身につけ、ブックレポートを行い、互いにディスカッションを通して、テーマに関する理解を深めていく。この積み重ねによって、研究方法と発表方法を学び、文献読解、問題提起、論述の論理展開、討論に関する基礎力を身につける。							
達成目標(授業の目的)	哲学及び倫理学における基本的な研究能力を身につけることが達成目標である。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業において建設的に問いを提起し、討論を繰り広げることができる。 ・倫理学の古典を読む力をつけ、自ら問いを立て、研究を進めることができる。 ・研究に必要な文献を探して的確に読解し、理解内容を表現する力を身につける。 ・文献を批判的に読解し、自身の考えを自らの考えの軌跡を研究論文の形に仕上げることができる。 							
評価方法	提出課題 (20%=2%×10 回)、授業参画 (14%=1%×14 回)、ブックレポート (26%)、小論文 (4,000 字以上) (40%)							
評価基準	<p>提出課題：事前に指示した通り課題を行い提出したかどうか。</p> <p>授業参画：積極的に授業に参加し、議論の深化発展に寄与できるかどうか。</p> <p>ブックレポート：自らの問いを練り上げ、その問いに関する適切な研究文献を選び、その文献を正確に読解し、理解内容を分かりやすく表現するとともに、批判的に吟味し、自身の意見を提示できるかどうか。</p> <p>小論文：自らの思考の軌跡を、研究論文の形式に仕上げ、分かりやすく論述できるかどうか。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	オリエンテーション・文献検索の方法・テキスト批評の方法	講義	春休みの宿題 (ブックノート) の提出。
2	ブックレポートの方法・小論文の書き方・研究倫理	講義 ディスカッション	研究テーマについてのアンケート提出・文献検索。
3	『自省録』第 1・2 巻講読・テキスト批評	講義 ディスカッション	教科書①pp.11-34 を読み、重要な論点を要約し、提出。
4	『自省録』第 3・4 巻講読・テキスト批評	講義 ディスカッション	教科書①pp.35-70 を読み、重要な論点を要約し、提出。
5	『自省録』第 5・6 巻講読・テキスト批評	講義 ディスカッション	教科書①pp.70-115 を読み、重要な論点を要約し、提出。
6	『自省録』第 7・8 巻講読・テキスト批評	講義 ディスカッション	教科書①pp.116-165 を読み、重要な論点を要約し、提出。
7	『自省録』第 9・10 巻講読・テキスト批評	講義 ディスカッション	教科書①pp.166-208 を読み、重要な論点を要約し、提出。
8	『自省録』第 11・12 巻講読・テキスト批評 教科書②についての説明	講義 ディスカッション	教科書①pp.209-244 を読み、重要な論点を要約し、提出。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
10	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
11	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
12	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
13	論文作成のエクササイズ	講義 ディスカッション	小論文のレイアウト提出。 教科書②を読んでおく。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held (定期試験期間内に小論文提出)			
14	小論文に対するコメント 論文作成のエクササイズ	講義 ディスカッション	ゼミ論についての研究計画を提出。

テキスト	① マルクス・アウレリウス『自省録』(神谷美恵子訳)(岩波文庫) ② 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会)
参考書	荻野弘之『マルクス・アウレリウス『自省録』—精神の城塞』(岩波書店)
その他 特記事項	テキストをていねいに読み進めようとする熱意と、自分の考えを練り上げ、わかりやすく伝えようとする粘り強さが求められる。分からないことや要望などがあれば、遠慮せず問い合わせること。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	丹木 博一		
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4214	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	哲学、倫理学、人間のいのちの意味、人間の尊厳							
授業の概要	自らが選んだ研究テーマをさらに絞り込み、ゼミナールⅠの研究発表において確認した各自の課題を解決することできるように、さらに研究を進めていく。各自一回研究発表を行い、時間をかけて議論をし、テーマに関する理解を深め、足りない点を自覚しながら、最終的に首尾一貫した研究論文を作成する。							
達成目標(授業の目的)	哲学及び倫理学の分野における研究発表能力及び論文作成能力を身につけることが達成目標である。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業において建設的に問いを提起し、討論を繰り広げることができる。 ・自らが提起した問いを研究的に追求し、古典を含む幅広い文献の読解に基づいて、説得力のある研究発表を行う力を身につける。 ・他の学生からの問いに応答する力を養い、適切な批判であればそれを受け入れ、粘り強く自らの論考を練り直し、説得力のある研究論文の形に仕上げることができる。 							
評価方法	提出課題(16%=2%×8回)、授業参画(14%=1%×14回)、研究発表(20%)、ゼミ論文(18,000~20,000字)(50%)							
評価基準	<p>提出課題：事前に指示した通り課題を行い提出したかどうか。</p> <p>授業参画：授業中のディスカッションに積極的に参加し、議論の創造的発展に寄与できるかどうか。</p> <p>研究発表：自身の哲学的・倫理的な問いを練り上げ、先行研究を踏まえて、その問いに説得力のある回答を与えようと努めた成果を、分かりやすく発表できるかどうか。</p> <p>ゼミ論文：自分が提起した哲学的・倫理的な問いについて、多様な議論に耳を傾けながら自分の立場を提示し、その妥当性について理由を挙げて論述できるかどうか。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション・研究能力育成のためのエクササイズ・研究倫理・研究発表方法	講義・ディスカッション・エクササイズ	夏休みの課題(ブックノート)提出
2	『ニコマコス倫理学』第1巻第1・4・5章講読・テキスト批評+ゼミ論作成の手順	講義・ディスカッション・エクササイズ	ゼミ論レイアウト提出。教科書 pp.11-41 を読んでおく。
3	『ニコマコス倫理学』第1巻第7章講読・テキスト批評	講義・ディスカッション・エクササイズ	教科書 pp.52-62 を要約し、問題を提起する。
4	『ニコマコス倫理学』第1巻第8・9章講読・テキスト批評+研究発表の方法	講義・ディスカッション・エクササイズ	教科書 pp.64-75 を要約し、問題を提起する。
5	『ニコマコス倫理学』第2巻第1・2章講読とテキスト批評+ゼミ論作成の手順	講義・ディスカッション・エクササイズ	教科書 pp.100-110 を要約し、問題を提起する。
6	『ニコマコス倫理学』第2巻第3・4章講読とテキスト批評	講義・ディスカッション・エクササイズ	教科書 pp.112-122 を要約し、問題を提起する。
7	『ニコマコス倫理学』第2巻第5・6章講読・テキスト批評	講義・ディスカッション・エクササイズ	教科書 pp.124-136 を要約し、問題を提起する。
8	『ニコマコス倫理学』第2巻第7・8・9章講読・テキスト批評+研究発表の方法	講義・ディスカッション・エクササイズ	教科書 pp.138-156 を要約し、問題を提起する。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備
10	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備
11	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備
12	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備
13	研究発表の振り返り ゼミ論文の書き方	講義 エクササイズ	ゼミ論文初校提出
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文初校についての講評 ゼミ論文作成のためのエクササイズ	講義 エクササイズ	ゼミ論文への加筆修正

テキスト	アリストテレス『ニコマコス倫理学(上)』(光文社古典新訳文庫)
参考書	J.O.アームソン『アリストテレス倫理学入門』(雨宮健訳)(岩波書店) 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会)
その他 特記事項	テキストをていねいに読み進めようとする熱意と、自分の考えを練り上げ、わかりやすく伝えようとする粘り強さが求められる。分からないことや要望などがあれば、遠慮せず問い合わせること。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール				担当教員	森下 園		
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	歴史学の作法、史料論、アカデミックスキルズ							
授業の概要	歴史学の作法と先行研究の読み方・資料の探し方、口頭発表の仕方などのアカデミックスキルズを学び、専門の文献の輪読と要約を行い、ゼミ研究のテーマを選ぶ。							
達成目標(授業の目的)	先行研究の読み方、発表の仕方、質疑応答などのアカデミックスキルを学ぶ。具体的には、①専門の論文を輪読することで、論文の構成や引用について学び、②ゼミ研究の仮テーマを選択し、③ゼミ研究のテーマを理解するために必要な本の要約発表を通して、批判的な読み方と発表資料の作り方、発表の仕方を学び、④ディスカッションや発表後の適切な発言・質問の仕方を学ぶ。							
到達目標(学修成果)	①論文の輪読を通して、論文の構成、言葉遣い、引用の仕方を身につける。 ②アカデミックな研究テーマを選択し、先行研究や参考資料を選ぶことができる。 ③本の要約発表を通して、先行研究の批判的な読み方、ポイントのまとめ方、発表資料の作り方、発表の作法を身につける。 ④輪読、要約発表の質疑応答により、アカデミックな場での質問の仕方を身につける。							
評価方法	①論文輪読：20% ②ゼミ研究テーマの発表：10% ③本の要約発表：30% ④輪読参加・要約発表への質問：4%×10回=40%							
評価基準	①論文輪読：割り当てページの十分な予習ができているか。 ②適切なゼミ研究テーマを選択し、必要な参考文献リストを作成できるか。 ③本の要約発表：必要な下調べをしたのち、内容をレジюмеにまとめて結論をつけ、適切な話し方で発表をしているか。準備不足は減点となる。 ④輪読、要約発表に適切な質問や意見を出しているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	プレ・ゼミの概要説明、研究倫理についての説明、論文輪読の割り当て	自己紹介、講義、質疑応答	輪読の準備
2	ゼミ研究のテーマ選択と先行研究、参考資料の探し方について	講義、インターネット検索の仕方、意見交換	輪読の準備、ゼミ研究テーマの選択
3	論文輪読と質疑応答①	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習
4	論文輪読と質疑応答②	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習
5	論文輪読と質疑応答③	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習
6	論文輪読と質疑応答④	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	論文輪読と質疑応答⑤	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習
8	論文輪読と質疑応答⑥	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習
9	ゼミ研究テーマと参考文献リストの発表	発表、質疑応答、講評	ゼミ研究の仮テーマを選択、 参考文献リストの作成
10	本の要約発表①	要約発表、質疑応答、 講評	要約発表準備 ゼミ研究の資料探し
11	本の要約発表②	要約発表、質疑応答、 講評	要約発表準備 ゼミ研究の資料探し
12	本の要約発表③	要約発表、質疑応答、 講評	要約発表準備 ゼミ研究の資料探し
13	本の要約発表④	要約発表、質疑応答、 講評	要約発表準備 ゼミ研究の資料探し
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	振り返り、ゼミ I の準備	意見交換	ゼミ研究テーマ・資料探し

テキスト	井上茂子「社会国家の歴史におけるナチ時代：労働者政策と福祉政策を事例にして」『上智史学』44号、1999年、89-120頁（上智大学学術情報リポジトリより入手可能） (http://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/00000009856)
参考書	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	森下 園	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-④	
キーワード	歴史学、史資料論、論文作成作法、プレゼンテーション						
授業の概要	歴史学の論文集の要約発表を通して、先行研究の批判的な読み方を学ぶ。並行してゼミ研究のテーマを決め、参考資料や先行研究の収集を行い、ゼミ研究のテーマと構成を決めて発表する。テーマは歴史学領域のほか、ジェンダー問題・紛争解決・環境問題などの社会問題、経済・経営や業界研究などからも設定できるが、歴史的背景を織り込むか、または社会史の観点を入れるなど歴史の視点を含めた研究を行うこととなる。						
達成目標(授業の目的)	①論文集の論文要約を行うことで、史資料・先行研究の探し方、批判的な読み方、発表レジюмеを用いての発表の作法を学ぶ。②この要約を通して、自分の論文のテーマや構成を設定し、適切な文献・資料を選定できるようにする。③また他の学生の発表を聞いて、適切な意見を出せるようにする。						
到達目標(学修成果)	①論文を読み、テーマをどのように設定し、どんな史資料を使い、どんな構成で論じているかを学び、その論文の評価とともに要約をレジюмеにまとめて発表できるようにする。 ②各自の研究テーマを設定し、参考文献・資料を選定し、発表の構成を組み立てられるようにする。 ③発表への質疑応答の仕方を学ぶ。						
評価方法	①要約発表：30% ②ゼミのテーマ・参考文献の選定・ゼミ論文の構成発表：30% ③要約発表、ゼミテーマ発表への質疑応答：4%×10回=40%						
評価基準	①要約発表：必要な下調べ、批判的な読み方、適切なレジюме作成、発表ができていないか ②ゼミのテーマ発表：テーマと参考文献は適切であるか、構成をきちんと考えているか ③他の学生の発表に対し、積極的に質問や意見を出しているか						
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ゼミの概要説明、研究倫理についての説明、要約発表の割り当て	講義、質疑応答	要約発表準備
2	要約発表のレジюме作成の仕方、参考文献の探し方、発表の仕方の注意	講義、質疑応答、ディスカッション	要約発表準備
3	要約発表①	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備
4	要約発表②	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備
5	要約発表③	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備
6	要約発表④	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備
7	要約発表⑤	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備
8	要約発表⑥	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	ゼミ論文のテーマ設定と構成、参考文献リストと引用註についての説明	講義、質疑応答、ディスカッション	ゼミ論文テーマ発表準備
10	ゼミ論文のテーマ発表①	ゼミ論文テーマ発表、質疑応答、講評	ゼミ論文テーマ発表準備
11	ゼミ論文のテーマ発表②	ゼミ論文テーマ発表、質疑応答、講評	ゼミ論文テーマ発表準備
12	ゼミ論文のテーマ発表③	ゼミ論文テーマ発表、質疑応答、講評	ゼミ論文テーマ発表準備
13	ゼミ論文のテーマ発表④	ゼミ論文テーマ発表、質疑応答、講評	ゼミ論文テーマ発表準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	今学期の振り返りと反省、夏休みの研究計画発表	研究計画発表、質疑応答、講評	夏休みの研究計画作成
テキスト	上智大学史学科編『歴史家の散歩道』(Sophia University Press)		
参考書	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)		

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	森下 園	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-④	
キーワード	歴史学、史資料論、プレゼンテーション、論文作成						
授業の概要	ゼミⅠに引き続き、各自が選んだ研究テーマにそって個人報告を行い、内容をゼミ論文にまとめる。トピックは、歴史学などの専門領域のほか、ジェンダー問題・紛争解決・環境問題などの時事問題、経済・経営や業界研究などからも設定できるが、歴史的背景を織り込む、または社会史の観点を入れるなど歴史の視点を含めた研究を行うこととなる。						
達成目標(授業の目的)	①研究に必要な文献・資料を自ら選定して読み込み、発表レジュメを用いた研究報告として発表できるようにする。②文献・資料を適切に使用し、引用註を付したゼミ論文を作成できるようにする。③他の学生の発表に対して、適切な質問と意見を出せるようにする。						
到達目標(学修成果)	①春学期のゼミ論文テーマ発表を発展させ、レジュメを作成し、アカデミックなスタイルでの中間研究報告ができるようになる。②発表内容を、文献・資料を引用し、引用註をつけたアカデミックな書式でのゼミ論文にまとめることができる。③他の学生の発表に対して適切な質問や意見表明をし、自分が受けた質問などから改善点を学べるようになる。						
評価方法	①レジュメを用いた中間研究報告：15%×2回=30% ②A4で10枚以上、参考文献リスト、引用註つきのゼミ論文：40% ③報告に対する意見・質問：3%×10回=30%						
評価基準	①テーマが適切に設定され、必要な参考文献・資料を参照しているか、構成が適切であるか、発表レジュメが適切に作成されているか ②ゼミ論文の書式・締め切りを守り、参考文献を踏まえて自分なりの結論に至っているか ③積極的に質問・意見を述べているか						
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	夏季休暇中の成果報告、研究倫理についての説明、中間報告についての説明	発表、講義、質疑応答	成果報告準備 中間研究準備
2	ゼミ論文の構成と中間報告についての具体的な説明	講義、質疑応答	中間研究報告準備
3	ゼミ論文の1回目中間報告①	発表、質疑応答、講評	中間研究報告準備
4	ゼミ論文の1回目中間報告②	発表、質疑応答、講評	中間研究報告準備
5	ゼミ論文の1回目中間報告③	発表、質疑応答、講評	中間研究報告準備
6	ゼミ論文の1回目中間報告④	発表、質疑応答、講評	中間研究報告準備
7	ゼミ論文の1回目中間報告⑤	発表、質疑応答、講評	中間研究報告準備
8	ゼミ論文の書式、構成、引用註、表の扱いについて	講義、質疑応答、ディスカッション	2回目中間研究報告準備 ゼミ論文執筆
9	ゼミ論文の2回目中間報告①	発表、質疑応答、講評	2回目中間研究報告準備 ゼミ論文執筆

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	ゼミ論文の2回目中間報告②	発表、質疑応答、講評	2回目中間研究報告準備 ゼミ論文執筆
11	ゼミ論文の2回目中間報告③	発表、質疑応答、講評	2回目中間研究報告準備 ゼミ論文執筆
12	ゼミ論文の2回目中間報告④	発表、質疑応答、講評	2回目中間研究報告準備 ゼミ論文執筆
13	ゼミ論文の2回目中間報告⑤	発表、質疑応答、講評	2回目中間研究報告準備 ゼミ論文執筆
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文の講評 振り返りと研究の総括	ゼミ論文の相互講評、 教員の講評	ゼミ論文振り返り ゼミ論文加筆修正

テキスト	なし
参考書	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)

科目名	SES150: プレ・ゼミナール				担当教員	宮崎 幸江		
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4217	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-③, 5-①	
キーワード	バイリンガリズム、言語マイノリティ、言語教育政策、多文化共生							
授業の概要	日本における言語マイノリティの子どもの教育と多文化共生について、基礎的な事柄を学ぶ。全員サービスラーニング活動を行うことにより、地域社会の課題解決に向けたアクティブラーニングを行う。							
達成目標(授業の目的)	本科目は、「多文化共生とバイリンガリズム」に関する知識を深め多文化共生社会の現状や課題について批判的に考える力を少しずつ養っていくことを目標とする。							
到達目標(学修成果)	学期の終わりには、バイリンガルの言語発達や母語保持について理解できるようになる。また、秦野市における言語マイノリティのおかれた状況を理解し、問題解決に向けて意見を述べられるようになる。							
評価方法	① 授業への積極参加 30% ② 口頭発表 20% ③ 期末レポート 50%							
評価基準	① 授業への積極参加：自分とは異なる他者の意見を理解しようとしているかどうか。具体的、建設的な意見を述べることで、問題解決に向けた討議の活性化に貢献したかどうかを評価する。 ② 口頭発表：参加したサービスラーニングでの観察を、授業で学んだ理論に基づき分析できているかを評価する。 ③ 期末レポート：バイリンガルの言語発達やことばとアイデンティティについて、先行研究を引用し、批判的に分析できているかを評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	A第1章 グローバリゼーションとは地球の縮小化とグローバルイシュー	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト全体に目を通し、グローバルイシューを調べる。
2	A第2章 グローバリゼーションと社会変動 多文化化と多文化共生	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト第2章を読み12頁キーワードを調べる。
3	A第3章 多文化共生のパースペクティブ 同心円的パースペクティブからの転換	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト第3章を読み32頁キーワードを調べる。
4	A第4章 文化とは何か グローバリゼーションと文化	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト第4章を読み44頁キーワードを調べる。
5	A第6章 外国人として生きる 偏見と言説	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト第6章を読み67頁キーワードを調べる。
6	A第7章 マイノリティとマジョリティ 外国人の子どもたちと日本の学校	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト第7章を読み87頁キーワードを調べる。
7	A第8章 多文化社会と社会統合の在り方 他国の事例	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト第8章を読み106頁キーワードを調べる。
8	A第14章 日本社会と日本人であること 日本人性、白人特権、脱構築	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト第14章を読み188頁キーワードを調べる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	B第1章 文化間移動と子どもの言語発達 母語、家庭と学校言語、継承語の違い	講義、グループディス カッション、質疑応答	B第1章を読み課題の質問の 答えを書いてくる。
10	B第2章 日本に住む多文化家庭のバイリ ンガリズム	講義、グループディス カッション、質疑応答	B第2章を読み課題の質問の 答えを書いてくる。
11	B第3章 子どものアイデンティティ交渉 アイデンティティのゆれと確立	講義、グループディス カッション、質疑応答	B第3章を読み課題の質問の 答えを書いてくる。
12	B第4章 ブラジルの日系人と在日ブラジ ル人 言語、文化、アイデンティティ	講義、グループディス カッション、質疑応答	B第4章を読み課題の質問の 答えを書いてくる。
13	B第5章 ことばとアイデンティティ レポート作成と研究倫理	講義、グループディス カッション、質疑応答	B第5章を読み課題の質問の 答えを書いてくる。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	プレゼンテーションとまとめ	講義、グループディス カッション、質疑応答	期末レポートを書く。プレゼ ンテーションの準備を行う。

テキスト	A 松尾知明『多文化共生のためのテキストブック』(明石書店) B 宮崎幸江『日本に住む多文化の子どもと教育—ことばと文化のはざままで生きる』(ぎょう せい出版)
履修条件、 前提科目	サービスラーニング(地域日本語支援)、またはサービスラーニング(小中学校日本語支援) を履修する。
その他 特記事項	春学期に「SL入門講座」を履修しなかった学生は秋学期に履修する。

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	宮崎 幸江		
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4217	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-④, 5-①	
キーワード	バイリンガリズム、言語マイノリティ、言語教育政策、多文化共生							
授業の概要	日本における言語マイノリティの子どもの教育と多文化共生について、基礎的な事柄を学ぶ。サービスラーニング活動を行うことにより、地域社会の課題解決に向けたアクティブラーニングを行う。							
達成目標(授業の目的)	本科目は、「多文化共生とバイリンガリズム」に関する知識を深め、多文化共生社会の現状や課題について批判的に考える力を少しずつ養っていくことを目標とする。							
到達目標(学修成果)	学期の終わりには、日本における言語マイノリティを対象とした教育の種類と課題を理解できるようになる。また、マイノリティの教育環境について、秦野市と国内の他の地域との比較を通して、課題を発見し多文化共生の実現に向けた行動がとれるようになる。							
評価方法	① 授業への積極参加 30% ② 口頭発表 20% ③ 期末レポート 50%							
評価基準	① 授業への積極参加：自分とは異なる他者の意見を理解しようとしているかどうか。具体的、建設的な意見を述べることで、問題解決に向けた討議の活性化に貢献したかどうかを評価する。 ② 口頭発表：参加したサービスラーニングでの観察を、授業で学んだ理論に基づき分析できているかを評価する。 ③ 期末レポート：ゼミナール II で取り組む研究テーマについて、夏休みの研究計画をたてる。研究課題の設定の妥当性、先行研究が適切かどうか等を評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	A 第 6 章 多文化共生社会の実現にむけて研究倫理について	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	A 第 6 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。
2	A 第 7 章 多様化する外国籍の子どもと多文化教育の変容	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	A 第 7 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。
3	B 第序章 グローバル時代の国際移動と変容する日本社会、第 1 章 オールドカマー	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	B 第 1 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。
4	B 第 2 章 ニューカマー 加速する日本社会の多文化化	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	B 第 2 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。
5	B 第 3 章 海外帰国生 教育問題の変遷と新たな動向	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	B 第 3 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。
6	B 第 4 章 留学生 日本における外国人留学生と日本からの海外留学	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	B 第 4 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。
7	B 第 5 章 家族 多様な文化と教育戦略	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	B 第 5 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。
8	B 第 7 章 地域 見慣れた風景と出会いなおす	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	B 第 7 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	B 第 8 章 労働市場 それはいかに移民の教育と関係するのか	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	B 第 8 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。
10	B 第 9 章 トランスナショナルな生活世界 往還する日系ブラジル人の教育経験から	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	B 第 9 章を読課題の質問の答えを書いてくる。
11	B 第 10 章 グローバル社会と教育格差 東アジアにおける教育移住をてがかりに	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	B 第 10 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。
12	B 第 11 章 移民国家アメリカの多文化教育 多様性の尊重と社会的公正をめざして	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	B 第 11 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。
13	B 第 15 章 ノンフォーマルな教育と居場所 夜間中学校、NPO、エスニックメディア	発表、ディスカッション、講義、質疑応答	B 第 15 章を読み課題の質問の答えを書いてくる。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	まとめ	講義、グループディスカッション、質疑応答	夏休みの研究計画を書く。

テキスト	A 宮崎幸江『日本に住む多文化の子どもと教育—ことばと文化のはざままで生きる』（ぎょうせい出版） B 額賀美紗子他『移民から教育を考える 子どもたちを取り巻くグローバル時代の課題』（ナカニシヤ出版）
履修条件、 前提科目	サービ斯拉ーニング（地域日本語支援）、またはサービ斯拉ーニング（小中学校日本語支援）を履修する。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	宮崎 幸江		
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4217	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-④, 5-①	
キーワード	バイリンガリズム、言語マイノリティの言語と文化、言語教育政策、多文化共生							
授業の概要	日本における言語マイノリティの子どもの教育と多文化共生について、各自がテーマを決めて1年かけて自主的に学ぶ。ゼミナールⅡでは、ゼミナールⅠで学んだことを発展させて課題研究を行う。先行研究の読み方、研究課題の絞り方、調査方法と結果のまとめ方等についてもクラスで学び、学年末にゼミ論文を書く。							
達成目標(授業の目的)	本科目は1年次から参加してきたコミュニティフレンドまたはカレッジフレンドでの経験と、日本語教育概論・演習、プレゼミナール等で学んだ知識を総合させて、多文化共生社会の現状や課題について批判的に考える力を養うことを目標とする。							
到達目標(学修成果)	学期終了までに、プレゼンテーションやディスカッションをするスキルを上達させ、多文化共生社会に関するゼミ論文を書く。また、卒業後も地域の課題に対して問題意識を持ち、他者のために、他者と共に行動する人間となる。							
評価方法	授業への積極的参加 20%、口頭発表 30%、ゼミ論文 50%							
評価基準	<p>授業参加：準備として文献を読んだ上でディスカッションに臨んでいるかどうか、積極的に質問をすることで、自分とは異なる他者の意見を理解しようとしているかどうか、具体的、建設的な意見を述べることで、問題解決に向けた討議の活性化に貢献したかどうかで評価する。</p> <p>口頭発表：各自の研究テーマにそってポイントを述べ、問題解決に向けた考察ができているかを評価する。</p> <p>ゼミ論文：文献をもとに、言語マイノリティの教育問題を批判的に分析し、論文にまとめる力を評価する。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	夏休みの研究報告1	発表と質疑応答、ディスカッション	プレゼン準備
2	夏休みの研究報告2	発表と質疑応答、ディスカッション	プレゼン準備
3	夏休みの研究報告3 研究倫理について	発表と質疑応答、ディスカッション	プレゼン準備
4	卒業研究の計画について 論文の構成とアウトライン	講義と質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み アウトラインを書く
5	文献講読1 自研究テーマに関する文献のレポート	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
6	文献講読2 過去2年間のゼミ論文を読む	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
7	論文の構成を考える グループでの話し合い	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
8	ゼミ論文の書き方1 構造、先行研究の引用、データの分析等	講義と質疑応答、ディスカッション	文献講読、発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	ゼミ論文アウトライン発表(全員)	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、発表準備
10	卒業研究中間発表	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、発表準備
11	卒業研究中間発表	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
12	ゼミ論文指導	講義、質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
13	ゼミ論文の書き方2 データの分析、参考文献の書き方等	講義、質疑応答、ディスカッション	ゼミ論文作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	最終発表、まとめ	講義、質疑応答、ディスカッション	ゼミ論文作成

テキスト	宮崎幸江(編)『多文化の子どもと教育—ことばと文化のはざまに生きる』(上智大学出版)
参考書	中島和子 1998『完全改訂版 バイリンガル教育の方法 12歳までに親と教師ができること』(アルク)
その他 特記事項	1年次から継続してきたサービスラーニング活動から、地域社会の課題解決に向けたアクティブラーニングを行ない卒業研究とする。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール				担当教員	狩野 晶子		
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4203	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-③, 5-②	
キーワード	コミュニケーション型言語教育、言語習得、児童英語教育、アクティブラーニング							
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、言葉の教育、習得、運用の観点から言葉と人との関わりを扱う。プレ・ゼミナールでは各自が自ら興味のあるテーマで研究を進める土台づくりとなる知識を応用言語学の観点から学び、そこから幅広く発展する分野の知識と関心を深め、2年次のゼミナールへの土台となる力を養う。							
達成目標(授業の目的)	興味関心のあるテーマについて文献を読み、文献資料に基づいて発表を行い、質疑応答ができるようになる。さまざまな関連テーマの内容について読み、調べ、発表することを通して言語学と言語習得の基礎について学ぶ。発表を通して効果的なプレゼンテーションのスキルを学ぶ。グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。							
到達目標(学修成果)	グループや個人での発表を通して、発表準備の手順を学び、聞き手にわかりやすく伝わる発表に不可欠な要素について体得する。資料を読み、理解を深め、内容をアウトラインとしてまとめレジュメを作成する過程で専門知識を深める。他の学生の発表を聞き的確な質問やコメントができるよう、聞く際のポイントを学び、実践する。							
評価方法	①授業時の活動への参加姿勢(30%)、②リアクションペーパー及び相互フィードバック(30%)、③グループおよび個人プレゼンテーション(20%)、④期末課題(20%)。							
評価基準	①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。 ②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすく的確な表現で文章化できる。 ③特定のテーマについて資料や文献を調べ、聞き手が内容を理解しやすい構成とヴィジュアル資料を作成し、興味・関心を共有できるように準備し発表、質疑応答を行える。 ④テーマに沿って調べた内容やテキストの要約を、読み手を意識したわかりやすく的確な表現で文章化できる。さらに、発表等に活用することを念頭に置いて、所定の書式に沿って資料として作成できる。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス 発表グループと分担決め	講義、 グループワーク	テキスト通読
2	テキストの読み進め方、具体的な発表の手法、研究倫理について指導	グループワーク	テキスト通読 発表準備
3	テキストをもとに発表・ディスカッション(1)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
4	テキストをもとに発表・ディスカッション(2)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
5	テキストをもとに発表・ディスカッション(3)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
6	テキストをもとに発表・ディスカッション(4)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	テキストの総括、ブックレポートについて発表の進め方の指導	講義、講評、ディスカッション	相互フィードバック準備 リアクションペーパー
8	ブックレポート発表・ディスカッション(1)	学生発表、相互評価、講評	ブックレポート発表準備 リアクションペーパー
9	ブックレポート発表・ディスカッション(2)	学生発表、相互評価、講評	ブックレポート発表準備 リアクションペーパー
10	ブックレポート発表・ディスカッション(3)	学生発表、相互評価、講評	ブックレポート発表準備 リアクションペーパー
11	次年度ゼミナールに向けて興味・関心のある分野をディスカッションを通して考える	グループワーク、講評、ディスカッション	ブックリスト提出準備 リアクションペーパー
12	次年度ゼミナールに向けて・ブックリスト発表(1)	グループワーク、講義、発表、講評	発表準備、ブックリスト リアクションペーパー
13	次年度ゼミナールに向けて・ブックリスト発表(2)	グループワーク、講義、発表、講評	発表準備、ブックリスト リアクションペーパー
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	振り返り活動とまとめ	グループワーク、発表、まとめ	振り返りと総括(レポートとして提出)

テキスト	小笠原 喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社)
参考書	新多 了『「英語の学び方」入門』(研究社)
その他 特記事項	このゼミナールに参加する者は積極的にサービ斯拉ーニング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	狩野 晶子		
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4203	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-④, 5-②	
キーワード	コミュニケーション型言語教育、言語習得、児童英語教育、アクティブラーニング							
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、言葉の教育、習得、運用の観点から言葉と人との関わりを扱う。プレゼミで学んだ基本的な知識をベースに、ゼミ論文作成へつながる個人のテーマを決め、内容を絞り込み深めてゆき、ゼミ II での発表、論文作成に向け準備を整える。							
達成目標 (授業の目的)	各自の研究テーマについて研究調査の基本的な進め方を体得する。文献の探し方、引用の仕方、研究倫理を学び、資料を読み、理解し、内容について要旨をまとめる。発表を通じて効果的なプレゼンテーションのスキルを学ぶ。発表、ディスカッション、グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。							
到達目標 (学修成果)	各自が興味関心のあるテーマについて文献を調べ、聞き手がその内容を理解し関心を共有できる発表と質疑応答を行う。発表者は担当箇所について十分に理解を深め、さらに他の文献・資料にもあたりレジюмеを作成し発表準備を行う。聞く側は発表に基づいた的確な質問、コメントができるよう、聞く際のポイントを学び、実践する。発表の内容をもとにディスカッションを行う手法を学び、実践する。							
評価方法	①授業時の活動への参加姿勢 (30%)、②リアクションペーパー及びフィードバック (30%)、③プレゼンテーション (20%)、④期末課題 (20%)							
評価基準	①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。 ②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすくて的確な表現で文章化できる。 ③特定のテーマについて資料や文献を調べ、聞き手が内容を理解しやすい構成とヴィジュアル資料を作成し、興味・関心を共有できるように準備し発表し、質疑応答を行える。 ④ゼミ論文の中間報告として、テーマに沿って調べた内容やテキストの要約を読み手を意識したわかりやすくて的確な表現で文章化できる。さらに、発表等に活用することを念頭に置いて、所定の書式に沿った資料として作成できる。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	プレゼミ概観・総括 各自が興味のあるテーマを考える	グループワーク	プレゼミテキスト復習 テーマ予備調査
2	各自が興味のあるテーマを調べ、深める 文献の探し方、研究倫理指導	講義、グループワーク 適宜図書館等を利用	テーマ探し、文献検索 ブックリスト作成
3	プレゼンテーションスキルの具体的指導	講義、実践指導 学生フィードバック	ポイント要約 発表準備
4	各自のテーマを深め、調べる	個別活動、面談 教員による個別指導	各自テーマを調べる
5	各自のテーマ・調べた内容について発表と ディスカッション (1)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
6	各自のテーマ・調べた内容について発表と ディスカッション (2)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション（1）	学生発表、質疑応答 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
8	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション（2）	学生発表、質疑応答 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
9	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション（3）	学生発表、質疑応答 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
10	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション（4）	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
11	プレゼンテーションの反省 各自のテーマの方向性の検討	省察、相互評価、 ディスカッション	リアクションペーパー
12	テキスト発表準備（1） [夏合宿にて発表予定]	ディスカッション、 グループワーク	テキストを読み、アウトライン作成・準備
13	テキスト発表準備（2） [夏合宿にて発表予定]	ディスカッション、 グループワーク	テキストを読み、アウトライン作成・準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ I の総括、各自の研究テーマについて 方向性と内容の確認	省察、相互評価、 ディスカッション	テーマに沿って発表アウトライン作成

テキスト	1. 小笠原 喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社） 2. 新多 了『「英語の学び方」入門』（研究社）
その他 特記事項	このゼミナールに参加する者は積極的にサービスマーケティング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	狩野 晶子		
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4203	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-④, 5-②	
キーワード	コミュニカティブな言語教育、言語習得、児童英語教育、アクティブラーニング							
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、プレ・ゼミナールとゼミナールⅠで学んだ知識をベースに、各自が設定したテーマを調べ、発表の過程を通して内容をまとめ、卒業課題となるゼミナール論文を完成させる。研究内容を学術論文の体裁に従ってまとめる具体的方法と、研究倫理、効果的なプレゼンテーションのスキルを併せて学ぶ。							
達成目標 (授業の目的)	各自の研究テーマについて研究調査を進め、学術論文としての体裁を整えたゼミナール論文を作成する。そのゼミナール論文のアウトラインをゼミナール最終発表として、パワーポイントスライドショー形式で他のゼミナール生の前で発表する。発表、ディスカッション、グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。							
到達目標 (学修成果)	各自の研究テーマに沿って学びを深め、構成や書式などの基本的な規定を守ったうえで、他のゼミナール生が内容を理解し関心を共有できるようなゼミナール論文を書く。最終発表としてゼミナール論文の概要を短く適切にまとめ、ヴィジュアル資料を活用し、聞く者にわかりやすく発表する。他者の発表を聞き的確な質問、コメントをする力を養う。今後の進路に向け、自律的、主体的学習者としての意識を持ち、実践する。							
評価方法	①授業時の活動への参加姿勢 (20%)、②リアクションペーパー及びフィードバック (20%)、③プレゼンテーション (30%)、④ゼミナール論文 (30%)。							
評価基準	①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。 ②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすくて的確な表現で文章化できる。 ③ゼミナール論文の内容について聞き手が理解しやすい構成とヴィジュアル資料を活用した準備と発表、質疑応答を行える。 ④ゼミナール論文として十分な文献や資料を調べ、所定の構成および書式に則った文章を作成できる。							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	論文作成に向け進捗状況と課題点の確認	グループワーク 教員との個別相談	プレゼミナールテキスト復習 テーマアウトライン準備
2	論文作成に向け各自のテーマについてグループディスカッション、コメント	グループワーク	文献研究 テーマアウトライン準備
3	論文作成に向け各自のテーマに従って準備、研究倫理について確認と指導	個別活動 教員との個別相談	文献研究 テーマ概要発表準備
4	論文作成に向け各自のテーマの概要を発表、ディスカッション	学生発表、ディスカッション、講評	発表準備 リアクションペーパー
5	論文作成に向け各自のテーマの概要を発表、ディスカッション	学生発表、ディスカッション、講評	発表準備 リアクションペーパー
6	最終プレゼンテーション（論文報告）のための準備（1）	ディスカッション、 教員による個別指導	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	最終プレゼンテーション(論文報告)のための準備(2)	ディスカッション、 教員による個別指導	発表準備 リアクションペーパー
8	最終プレゼンテーション(論文報告)のための準備(3)	ディスカッション、 教員による個別指導	発表準備 リアクションペーパー
9	学生による最終プレゼンテーション・論文作成(1)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
10	学生による最終プレゼンテーション・論文作成(2)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
11	学生による最終プレゼンテーション・論文作成(3)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
12	学生による最終プレゼンテーション・論文作成(4)	学生発表、 相互評価、講評	論文初校提出準備
13	論文初校提出:相互校正	相互校正、相互評価	論文初校修正、最終稿へ向け 修正方針をまとめる
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミナール論文を相互に読みあい講評と校正、ゼミナール総括	振り返り活動、ディス カッション	論文初校修正方針の確認、論 文最終稿提出準備

テキスト	なし。ゼミナールIにて指定したテキストを継続使用。
参考書	1. 小笠原 喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社) 2. 新多 了『「英語の学び方」入門』(研究社)
その他 特記事項	このゼミナールに参加する者は積極的にサービ斯拉ーニング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	飯田 純也		
開講期	春	開講時限	水4限	研究室	4216	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	文学、ゲーム、メディア、倫理、心理、社会、政治、生物、戦争、平和、国家、文化、文明							
授業の概要	このゼミでは、人文科学及び社会科学の諸問題を研究する準備として、知識の裾野を広げ、ディスカッションを通して批判的思考力を高める。同時に文献研究の実践を通して、研究の意義と方法を学ぶ。履修者は自分のテーマを自ら設定し、資料の分析、解釈を行い、研究成果を中間レポート(和文3,000字以上)にまとめる。							
達成目標(授業の目的)	達成目標は、自ら選んだテーマについて、文献資料の分析から得た根拠を使い、自分の見解を説得的に論じることができる能力を身につけることである。							
到達目標(学修成果)	1. 社会的、歴史的背景の中で問題を発見、評価、設定することができる 2. 上の1をふまえ、自らの意見、主張を根拠付けて説明することができる 3. 上の1と2をふまえ、自分が導いた結論と対立する意見に対して、複数の根拠を上げながら、効果的に説得することができる							
評価方法	1. 授業参加は毎回のシャトルカードとグループワークの内容(60%) 2. 中間レポートとペアワークの内容(40%)							
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション 文献研究指導(研究倫理)	講義、ディスカッション	映像資料視聴環境の準備、ゼミ論を考えはじめる
2	生物学 ダーウィン『種の起源』(1)	講義、ディスカッション、グループワーク	教科書、映像資料を基にシャトルカード記入
3	生物学 ダーウィン『種の起源』(2)	講義、ディスカッション、グループワーク	ディスカッション準備、シャトルカード記入
4	政治哲学 マキャベリ『君主論』(1)	講義、ディスカッション、グループワーク	教科書、映像資料を基にシャトルカード記入
5	政治哲学 マキャベリ『君主論』(2)	講義、ディスカッション、グループワーク	ディスカッション準備、シャトルカード記入
6	政治哲学 アーレント『全体主義の起原』(1)	講義、ディスカッション、グループワーク	教科書、映像資料を基にシャトルカード記入
7	政治哲学 アーレント『全体主義の起原』(2)	講義、ディスカッション、グループワーク	ディスカッション準備、シャトルカード記入
8	戦争と平和 カント『永遠平和のために』(1)	講義、ディスカッション、グループワーク	教科書、映像資料を基にシャトルカード記入
9	戦争と平和 カント『永遠平和のために』(2)	講義、ディスカッション、グループワーク	ディスカッション準備、シャトルカード記入
10	メディア論 リップマン『世論』(1)	講義、ディスカッション、グループワーク	教科書、映像資料を基にシャトルカード記入
11	メディア論 リップマン『世論』(2)	講義、ディスカッション、グループワーク	研究テーマ決定に向け文献リサーチ、シャトルカード記入

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
12	平和論（1） フロイト『人はなぜ戦争をするのか』	講義、ディスカッション、グループワーク	教科書、映像資料を基にシャトルカード記入
13	平和論（2） 中間レポート提出、シャトルカード返却	講義、ディスカッション、グループワーク	文献リサーチの継続、中間レポートの準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	中間レポート講評、学修の振り返り	講評、ペアワーク	シャトルカードの振り返りを行う

テキスト	「100分 de 名著ダーウィン『種の起源』」（NHK 2015）、「100分 de 名著マキャベリ『君主論』」（NHK 2017）、「100分 de 名著アーレント『全体主義の起原』」（NHK 2017）、「100分 de 名著カント『永遠平和のために』」（NHK 2016）、「100分 de 名著カイヨワ『戦争論』」（NHK 2019）、「100分 de メディア論」（NHK 2018）、「100分 de 平和論」（NHK 2016）
------	---

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	飯田 純也		
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4216	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	文学、倫理、ゲーム、教育、メディア、社会、性、法律、科学、政治、戦争、国家							
授業の概要	このゼミでは、人文科学及び社会科学の諸問題を研究する準備として、知識の裾野を広げ、ディスカッションを通して批判的思考力を高める。同時に文献研究の実践を通して、研究の意義と方法を学ぶ。履修者は自分のテーマを自ら設定し、資料の分析、解釈を行い、研究成果をゼミ論文(和文5,000字以上)にまとめる。							
達成目標(授業の目的)	達成目標は、自ら選んだテーマについて、文献資料の分析から得た根拠を使い、自分の見解を説得的に論じることができる能力を身につけることである。							
到達目標(学修成果)	1. 社会的、歴史的背景の中で問題を発見、評価、設定することができる 2. 上の1をふまえ、自らの意見、主張を根拠付けて説明することができる 3. 上の1と2をふまえ、自分が導いた結論と対立する意見に対して、複数の根拠を上げながら、効果的に説得することができる							
評価方法	1. 授業参加は毎回のシャトルカードとペアワークの内容(40%) 2. ゼミ論文と発表と質疑応答の内容(60%)							
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	科学を相対化:ゼミ論文は科学的ではなく 解釈学・修辞学・文献学的	講義、ペアワーク、 ディスカッション	テキスト予習 pp. 7-51
2	研究態度を見直す:文化消費から文化批判 <i>Hannah Arendt (film) (2012)</i>	講義、ペアワーク、 ディスカッション	課題映画を視聴し、要点を下調べ
3	情報をどう収集するか?	講義、ペアワーク、 ディスカッション	テキスト予習 pp. 52-70
4	情報をどう整理するか?	講義、ペアワーク、 ディスカッション	テキスト予習 pp. 71-105
5	情報を整理してプレゼンテーションする	講義、ペアワーク、 ディスカッション	テキスト予習 pp. 106-122
6	文章としてどうまとめるか?	講義、ペアワーク、 ディスカッション	テキスト予習 pp. 123-146
7	卒論の様式マニュアル ゼミ論文中間発表 (Group 1)	講義、ペアワーク、 ディスカッション、発表	テキスト予習 pp. 147-195 ゼミ論文発表準備
8	ゼミ論文中間発表 (Group 2)	学生発表、質疑応答、 講評	ゼミ論文発表準備
9	ゼミ論文中間発表 (Group 3)	学生発表、質疑応答、 講評	ゼミ論文発表準備
10	ゼミ論文直前発表 (Group 4)	学生発表、質疑応答、 講評	ゼミ論文発表準備
11	ゼミ論文直前発表 (Group 5)	学生発表、質疑応答、 講評	ゼミ論文発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
12	研究倫理教育 ゼミ論文の提出	講義、質疑応答、ディスカッション	ゼミ論文提出準備
13	ゼミ論文の返却と講評 再提出の案内	講義、質疑応答、ディスカッション	ゼミ論文再提出準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	学修の振り返り	学生発表、質疑応答、講評、個人指導	振り返りの準備

テキスト	榎木 伸明著『卒論を書こうーテーマ探しからスタイルまで』（三修社）
参考書	バルバラ・スコヴァ主演『ハンナ・アーレント』（映画）（ポニーキャニオン）

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	神谷 雅仁		
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4215	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	社会言語学、言語のバリエーション、社会方言／地域方言、ポライトネス、批判的な思考							
授業の概要	本講では専門書を英語で読む、自己研究テーマに沿って発表をする、様々な言語事象についてディスカッションをする、専門分野に関するレポートを作成するなどのアカデミック・スキルズ修練のための活動を、社会言語学という専門分野の内容を題材に行っていく。学期前半は社会言語学に関する指定テキストを輪読しながら、多言語社会や言語政策、また言語使用とそのバリエーションなどのテーマについて学び、後半は社会言語学の分野から各自がテーマを選択し、そのテーマに沿って文献を調べ、まとめ、そして発表を行っていく。							
達成目標 (授業の目的)	本講の掲げる目標のひとつは大学という場での学問や専門的な研究を始めるために必要とされる様々なアカデミック・スキルズの鍛錬であり、学生たちは各自 2 回の発表を通して、自分が理解した内容や得た知識を相手に分かりやすく伝えることができるようになる。同時に社会言語学的な視点から自分たちの母語や学習言語についての理解を深め、最終的には自己研究へ向けたテーマ設定や問題提起ができるようになる。							
到達目標 (学修成果)	学生は発表を通して意見の整理の仕方、レジュメの作成、効果的な発表の方法、先行文献の使い方、発表後のディスカッションや質疑応答の進め方などについて学び、それらを的確に実践できるようになる。また言語を社会的な視点から考察し、それを自らの生活や経験という文脈の中で捉えられるようになる。さらに学期末レポートを作成する中で、先行研究の重要性や自らの意見・主張の大切さ、文献を批判的に読む力、文献リストの書き方などを学び、それらの観点をレポート作成に活かせるようになる。							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・発表 1 (Textbook <i>Sociolinguistics</i> by B. Spolsky のチャプター・プレゼンテーション) : 20% ・発表 2 (自己研究テーマ) : 20% ・授業参加・提出物 (Post-presentation discussion, chapter summary) : 15% ・学期末レポート (Term paper) : 25% ・Article Note : 20% 							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・発表 1, 2 では、発表の進め方、レジュメの書き方、先行研究の扱い、文献の示し方、そしてディスカッション時の質問に対する受け答えの適切さなどが評価される。 ・授業参加は発表後のディスカッション時に、オーディエンスとして発表者にどのようなフィードバックを返すことができるかに着目し、特に分析的、批判的な視点をともなうフィードバックには高い評価が与えられる。発言の回数と発言内容によって判断される。提出物は毎回の chapter summary を指し、各チャプター内の「Section 2: Readings」の要約がしっかりとできているかが問われる。 ・学期末レポート (Term paper) は自己研究テーマについて第二回目の発表内容をもとに、それを自らの論点や問題提起を含めたレポートの体裁にまとめ、提出期限内に提出できたかどうか評価される。 ・Article Note は各エントリーに必要な言語活動がすべて含まれており、設定された回数のエントリー数が達成できている状態で提出期限内に提出できたかどうか評価される。 							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview 研究倫理について	講義、ディスカッション	Read Preface in the textbook
2	Chapter presentation: 1. The social study of ... グループ発表およびディスカッション	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備およびチャプターサマリーの作成、Article Note
3	Chapter presentation: 2. The ethnography of ... グループ発表およびディスカッション	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備およびチャプターサマリーの作成、Article Note
4	Chapter presentation: 3. Locating variation ... グループ発表およびディスカッション	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備およびチャプターサマリーの作成、Article Note
5	Chapter presentation: 4. Styles, gender, ... グループ発表およびディスカッション	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備およびチャプターサマリーの作成、Article Note
6	Chapter presentation: 5. Bilingualism グループ発表およびディスカッション	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備およびチャプターサマリーの作成、Article Note
7	Chapter presentation: 6. Societal multilingualism グループ発表およびディスカッション	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備およびチャプターサマリーの作成、Article Note
8	Chapter presentation: 7. Applied sociolinguistics グループ発表およびディスカッション	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備およびチャプターサマリーの作成、Article Note
9	自己研究テーマに関する個人発表およびディスカッション Group 1	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備および発表内容の復習、Article Note
10	自己研究テーマに関する個人発表およびディスカッション Group 2	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備および発表内容の復習、Article Note
11	自己研究テーマに関する個人発表およびディスカッション Group 3	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備および発表内容の復習、Article Note
12	自己研究テーマに関する個人発表およびディスカッション Group 4	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備および発表内容の復習、Article Note
13	自己研究テーマに関する個人発表およびディスカッション Group 5	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備および発表内容の復習、Article Note
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	自己研究テーマに関する個人発表およびディスカッション Group 6	発表、ディスカッション、教員コメント	発表準備および発表内容の復習、Article Note

テキスト	Spolsky, B. <i>Sociolinguistics</i> (Oxford U.P.). 学生の作成した発表レジュメ
参考書	東照二『社会言語学入門』(研究社) 田中春美・田中幸子『よくわかる社会言語学』(ミネルヴァ書房)

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	神谷 雅仁		
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4215	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	社会言語学、言語バリエーション、言語と年齢、Genderlect、地域方言、外来語使用							
授業の概要	ゼミナールⅠで専門的な学びのためのアカデミック・スキルズを学び、また言語学や社会言語学の分野に関するテーマの絞り込みを終えた学生たちは、ゼミナールⅡで本格的に自己研究を開始する。最終目標であるゼミナール論文の作成に向け、学生たちは学期中に2回の発表を行いながら、自らの研究を進めていく。							
達成目標(授業の目的)	本講では学びの集大成としてゼミナール論文の作成を課しているが、学生たちは自らの自己研究に必要な様々な知識を、専門書の理解を通じて修得していく。同時に発表の仕方、レジユメの作成、ディスカッション時のポイントなどについても、引き続き実践を通して研鑽していく。							
到達目標(学修成果)	本講を通して学生はゼミナール論文作成という大きな目標を掲げ、それを達成するため計画的にそして確実に必要な作業を進めていくことができるようになる。具体的には先行研究の収集、論文構成の決定(仮説やデータ収集法)、実際のデータ収集、そして実際の執筆作業など論文完成までの長い工程の中をひとつずつのステップを着実に踏み、最終的に自らの計画した目標を達成することができるようになる。同時にゼミナール論文の作成や発表の機会を通し、自らのテーマ設定の仕方や先行研究の重要性について学ぶ一方で、既存の主張や考え方に対して批判的な視点も養われていく。							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ゼミナール論文: 50% 個人発表(2回)およびディスカッション: 30% 授業参加: 20% 							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ゼミナール論文: 提出された論文が、全体の構成を含め一つの論文として成り立っているか。つまり授業内で学んだことが活かされたかたちで論文が完成しているかどうか。 発表: 自らの研究内容を口頭、そしてレジユメを用いてわかりやすく説明しているか、また研究内容に関して質問された際、過不足なく答えているか、など。 授業参加: 聴衆(オーディエンス)として発表者の発表に対してコメントや質問を含めたフィードバックを返しているかどうか、またそのフィードバックの内容が発表者に対して建設的であり、示唆を与えるものであり、そして批判的であるかどうか問われる。 							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview ゼミナール論文について、研究倫理について、「論文の基本構成」提出	講義、ディスカッション、SAMPLE提示	ゼミナール論文のテーマ決め、「論文の基本構成」準備
2	第1回プレゼンテーション Group 1(自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
3	第1回プレゼンテーション Group 2(自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
4	第1回プレゼンテーション Group 3(自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
5	第1回プレゼンテーション Group 4(自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
6	第1回プレゼンテーション Group 5 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
7	第1回プレゼンテーション Group 6 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
8	第2回プレゼンテーション Group 1 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
9	第2回プレゼンテーション Group 2 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
10	第2回プレゼンテーション Group 3 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
11	第2回プレゼンテーション Group 4 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
12	第2回プレゼンテーション Group 5 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
13	第2回プレゼンテーション Group 6 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Course review ゼミナール論文作成準備	講義、グループワーク、ディスカッション	振り返り・総括、ゼミナール論文の作成準備

テキスト	テキストは使用せず。各回の発表者が配布する発表用レジュメ、および教員の準備する関連テーマについての配布物を使用する。
参考書	浜田麻里他『大学生と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版) 東照二『社会言語学入門』(研究社)

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	C. Oliver	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4205	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-③	
キーワード	multiculturalism, immigration, ethnicity, identity, vocabulary, presentation skills							
授業の概要	In this course, students will read about and discuss various topics related to multiculturalism—such as immigration, ethnicity, discrimination, and cultural identity. While doing so, students will build up their English vocabulary, improve their ability to discuss complex cultural and social issues in English, and develop their basic research skills. Each student will do two presentations in English.							
達成目標(授業の目的)	Students will learn about “multiculturalism” in various countries, improve their ability to understand and discuss social and cultural issues in English, and develop basic research and presentation skills.							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> appropriately use key English vocabulary from readings related to social and cultural issues; summarize important information from readings about social and cultural issues; express one’s own views on multiculturalism-related issues in the world today; appropriately use information from books or other research sources; organize information from research into an outline for a presentation; deliver a short, well-organized presentation with good delivery. 							
評価方法	Participation (35%), Homework (35%), Presentations (30%).							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> Participation: active involvement in discussions and other everyday class activities, effort to regularly use English, effort to express one’s own views; Homework: completed thoroughly and according to instructions, submitted on time, appropriate use of vocabulary from readings, summarizing of information, expression of own views, appropriate use of information from research sources; Presentations: appropriate use of vocabulary, summarizing of information, expression of own views, organization (including “preview” in Introduction) of spoken presentation and printed outline, appropriate use of research sources, good delivery (including voice, eye contact, etc.). 							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Orientation to the course. Perspectives on multiculturalism. Explanation of Mini Research Project.	explanation by teacher, small-group work	Read the course syllabus. Review handouts.
2	MiniResearch Project about one country. Explanation of upcoming Presentation #1, Fact Sheets, and readings / discussions.	lecture, small-group discussion	Do light research, prepare Mini Research Project homework.
3	Presentation basics (organization, “preview” of content, delivery, visuals). Research basics / ethics (using sources, avoiding plagiarism.)	lecture, small-group work, in-class writing	Review handouts distributed in class today. Prepare Fact Sheet (Canada / Australia).
4	Presentation #1 (¼ of students): Canada, Australia, Brazil, Mexico. Readings and discussion.	short presentations, small-group discussion	Prepare presentation, handout. Read handout, write summary. Prepare Fact Sheet (Sweden / France.)
5	Presentation #1 (¼ of students): England, France, Sweden, Turkey. Readings and discussion.	short presentations, small-group discussion	Prepare presentation, handout. Read handout, write summary.

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
6	Case study: reading and discussion. Explanation of Presentation #2.	small-group discussion, lecture	Prepare Fact Sheet (Malaysia / Indonesia).
7	Presentation #1 (¼ of students): Malaysia, Indonesia, India, Philippines. Readings and discussion.	short presentations, small-group discussion	Prepare presentation, handout. Read handout, write summary. Prepare Fact Sheet (Switzerland / South Africa).
8	Presentation #1 (¼ of students): Switzerland, South Africa, Israel, Egypt. Readings and discussion.	short presentations, small-group discussion	Prepare presentation, handout. Read handout, write summary.
9	Organizing and presenting your ideas.	lecture, small-group work, writing	Prepare Topic Sheet for Presentation #2.
10	Presentation #2 (¼ of students)	presentations, small-group discussions	Prepare presentation and outline / handout.
11	Presentation #2 (¼ of students)	presentations, small-group discussions	Prepare presentation and outline / handout.
12	Presentation #2 (¼ of students)	presentations, small-group discussions	Prepare presentation and outline / handout.
13	Presentation #2 (¼ of students)	presentations, small-group discussions	Prepare presentation and outline / handout.
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Remaining presentations, if any. Recap of semester, course evaluation. Overview of Seminar I and Seminar II.	small-group work, in-class writing, lecture	Review materials studied to date.

テキスト	Handouts (mainly news articles) will be provided by the teacher. To prepare for presentations, students will do their own research online or in the library.
参考書	A. Rattansi. <i>Multiculturalism: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press). <i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i> (Sophia University Junior College Division).
その他 特記事項	All work for this course is to be done in English. Homework must be submitted at the very beginning of class.

科目名	SES150: プレ・ゼミナール				担当教員	杉村 美佳		
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4220	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	国際教育学研究、国際教育協力、開発教育、参加型学習の歴史と現状、総合学習							
授業の概要	途上国への国際教育協力の状況を検討した上で、先進国における参加型学習の歴史や現状を理解し、途上国の問題解決に参加できる能力と態度を養う教育のあり方を考察する。前半は、テキストに基づいてグループ研究発表を行い、国際教育学研究の基礎理論を学ぶ。後半では、英文原書の講読を進め、途上国の女子教育について理解を深める。最後に2年生のゼミ論文の発表に参加し、論文の書き方を学ぶ。							
達成目標(授業の目的)	国際教育協力や開発教育のあり方、参加型学習の歴史や現状を理解するとともに、教育学の英文原書を読む力を身につける。さらに国際的視点から日本の教育政策や教育実践などの方向性を探ることを通して、国際教育学研究の基礎的な理論と方法論を習得する。							
到達目標(学修成果)	①国際教育協力や開発教育のあり方、参加型学習の歴史や現状に関する知識を習得し、国際的視点から教育事象を論理的、批判的に分析し、考察することができる。 ②テキストの内容を整理してレジュメを作成し、相手に効果的に伝わる発表や議論をすることができる。 ③英文講読を通して教育学の専門用語を学び、途上国の女子教育の現状と課題について理解し、教育学の英文原書を読む力を身につける。							
評価方法	①討論への参画(20%)、②研究発表(30%)、③英文講読(20%)、④リアクション・ペーパー(20%)、⑤ブックレポート(10%)							
評価基準	①討論への参画：研究発表や論点に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 ②研究発表：テキストの内容を的確に整理してレジュメを作成し、効果的な発表を行っているか。討論の論点を提示しているか。 ③英文講読：英文原書の内容を的確に把握し、途上国の女子教育の現状と課題を理解できているか。 ④リアクションペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に考察できているか。 ⑤ブックレポート：内容を的確に要約し、国際教育学の視点から意見を論理的、批判的に論述できているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	国際教育学の理論と研究倫理	講義、ディスカッション	テキスト序章の講読 発表・ディスカッションの準備
2	援助と開発の歴史	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第1章の要約 発表・ディスカッションの準備
3	開発プロジェクトのタイプ	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第3章の要約 発表・ディスカッションの準備
4	参加型開発とは	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第4章の要約 発表・ディスカッションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
5	日本の NGO と参加型開発	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 5 章の要約 発表・ディスカッションの準備
6	日本の開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 6 章の要約 発表・ディスカッションの準備
7	開発教育ワークショップ	ワークショップ・解説・リアクションペーパー	配布資料の講読 発表・ディスカッションの準備
8	総合学習と ESD	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 7 章の要約 発表・ディスカッションの準備
9	参加型学習の歴史的系譜	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 8 章の要約 発表・ディスカッションの準備
10	これからの国際協力と開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト終章の要約 発表の準備
11	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.1-3 の翻訳 発表の準備
12	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.4-6 の翻訳 発表の準備
13	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.7-10 の翻訳 発表の準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	2 年生のゼミ論文発表会への参加	ディスカッション・リアクションペーパー	ブックレポートの作成

テキスト	田中治彦『国際協力と開発教育—「援助」の近未来を探る』（明石書店） King, Elizabeth M. <i>Women's Education in Developing Countries</i> (World Bank).
参考書	小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書） 菅野琴・西村幹子・長岡智寿子編著『ジェンダーと国際教育開発—課題と挑戦—』（福村出版）
その他 特記事項	発表の 1 週間前までに教員にレジュメを提出し、指導を受けること。 ゼミ生には討議への活発な参加を求める。

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	杉村 美佳		
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4220	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	国際教育学研究、国際教育協力、開発教育、参加型学習の歴史と現状、総合学習							
授業の概要	開発教育の理念と歴史、地球的課題と開発教育、今後の開発教育の展開について専門的に学ぶ。具体的には、日英テキストの講読を通して、国際協力、環境、多文化共生、子どもの権利、ジェンダーなどをテーマとした開発教育の方法やカリキュラムのあり方を考察する。また、実際に開発教育ワークショップに参加し、開発教育の実践に必要な知識や技術を習得する。最後に各自自由にゼミ論文のテーマを設定し、構想発表を行う。							
達成目標 (授業の目的)	国際協力、環境、多文化共生、子どもの権利、ジェンダーなどの地球的諸課題について理解を深めた上で、これらをテーマとした開発教育の実践に必要な技術を習得する。またゼミ論文のテーマを設定して文献を収集し、論点を整理して論文の構想を練り上げる力を習得する。							
到達目標 (学修成果)	①国際協力、環境、多文化共生、子どもの権利、ジェンダーなどの地球的諸課題について、教育を通して問題を解決するための方法を考察することができる。 ②開発教育のワークショップへの参加を通して実践に必要な知識や技術を習得する。 ③ゼミ論文のテーマを設定して先行研究を整理し、研究課題や研究方法などの構想を適切にまとめることができる。							
評価方法	①討論への参画 (10%)、②テキスト発表 (30%)、③ゼミ論文の構想発表 (20%)、④リアクション・ペーパー (30%)、⑤ブックレポート (10%)							
評価基準	①討論への参画：研究発表や論点に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 ②研究発表：テキストの内容を的確に整理して考察を加えたレジюмеを作成し、効果的な発表を行っているか。英文原書の内容を的確に理解できているか。 ③ゼミ論文の構想発表：ゼミ論文のテーマを適切に設定して先行研究を整理し、研究課題や方法などの構想を論理的にまとめているか。 ④リアクションペーパー：論題について発表内容をふまえて論理的に考察できているか。 ⑤レポート：文献を適切に要約して論点を整理し、意見を論理的に述べているか。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	開発教育の内容・方法・カリキュラムと研究倫理	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 2 章の要約 発表・ディスカッションの準備
2	ヨーロッパとアジアにおける開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 3 章の要約 発表・ディスカッションの準備
3	持続可能な開発目標 (SDGs) の課題	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 4 章の要約 発表・ディスカッションの準備
4	日本と世界の貧困問題	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 5 章の要約 発表・ディスカッションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
5	環境問題と開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第6章の要約 発表・ディスカッションの準備
6	多文化共生社会の実現に向けて	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第8章の要約 発表・ディスカッションの準備
7	子どもの権利条約	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第9章の要約 発表・ディスカッションの準備
8	開発教育ワークショップ	ワークショップ リアクションペーパー	配布資料の講読 発表・ディスカッションの準備
9	ジェンダーと開発	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第10章の要約 発表・ディスカッションの準備
10	地域からの開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第12章の要約 発表の準備
11	ゼミ論文構想発表（1）、 <i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト pp.285-287 の翻訳 発表の準備
12	ゼミ論文構想発表（2）、 <i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト pp.291-293 の翻訳 発表の準備
13	ゼミ論文構想発表（3）、 <i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト pp.294-296 の翻訳 発表の準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文構想発表（4）、 <i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	ブックレポートの作成

テキスト	田中治彦『開発教育—持続可能な世界のために—』（学文社） King, Elizabeth M. <i>Women's Education in Developing Countries</i> (World Bank).
参考書	田中治彦・杉村美紀編『多文化共生社会におけるESD・市民教育』（上智大学出版） 小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）
その他 特記事項	発表の1週間前までに教員にレジュメを提出し、指導を受けること。 ゼミ生には討議への活発な参加を求める。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	杉村 美佳		
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4220	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	先行研究の検討、研究課題・研究方法の設定、文献研究・調査、ゼミ論文の作成、発表							
授業の概要	ブレ・ゼミナールおよびゼミナールⅠで学んだ国際教育学研究の基礎的な理論と手法を用いて実際にゼミナール論文を作成する。毎回発表者が研究成果を報告し、ゼミ生全員で課題を討議する。また、1年次生を対象に開発教育のワークショップを実践する。							
達成目標(授業の目的)	国際教育学研究の基礎的な理論と研究手法を用いて教育事象を論理的、批判的に考察し、ゼミナール論文を作成、完成させることを目標とする。また、研究成果の報告ではお互いの課題を見出して討議し、効果的に発表する力を培う。さらに開発教育の実践を通して基礎的な指導技術を習得する。							
到達目標(学修成果)	①先行研究の検討、研究課題の設定、文献研究や各種調査などを通して論文作成に必要な知識、技法を習得し、研究論文の形に仕上げることができる。 ②研究内容を論理的に論述し、独自の考察を加え、説得力のある発表ができる。 ③毎回発表者が研究成果を報告し、ゼミ生全員で課題を討議することを通して、教育事象を論理的、批判的に分析し、考察できるようになる。 ④開発教育の実践を通して基礎的な指導技術を習得する。							
評価方法	①討論への参画(10%)、②リアクションペーパー(20%)、③研究発表(30%)、④ゼミ論文(40%)							
評価基準	①討論への参画：研究発表に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 ②リアクションペーパー：論題について発表内容をふまえて論理的に考察できているか。 ③研究発表：研究内容を論理的に論述、考察し、説得力のある発表になっているか。 ④ゼミ論文：先行研究の検討、研究課題の設定、研究方法、内容が論文の技法に即していて適切であるか。書式や提出期限を守っているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ゼミ論文の書き方、研究倫理	発表・解説・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
2	ゼミ論文中間発表と討論(1)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
3	ゼミ論文中間発表と討論(2)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
4	ゼミ論文中間発表と討論(3)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
5	ゼミ論文中間発表と討論(4)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	ゼミ論文中間発表と討論（5）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
7	開発教育ワークショップの準備	ディスカッション・相互評価講評	解説の要約、教材の準備
8	開発教育ワークショップの実践	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	教材の準備、論文の作成
9	ゼミ論文発表と討論（1）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
10	ゼミ論文発表と討論（2）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
11	ゼミ論文発表と討論（3）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
12	ゼミ論文発表と討論（4）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
13	ゼミ論文発表と討論（5）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文発表会	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、レジュメの作成

テキスト	特になし。適宜、プレ・ゼミナールおよびゼミナール I で使用したテキストを参照する。
参考書	小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書） 「杉村ゼミ論文集」
履修条件、前提科目	特になし。
その他特記事項	ゼミ生には討議への活発な参加を求める。発表の 1 週間前までに原稿を教員に提出し、添削を受けること。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール				担当教員	小林 宏子		
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4204	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	マザー・テレサ、キリスト教人間観、信仰、祈り、愛、奉仕、召命、隣人愛の実践、救い							
授業の概要	テキスト講読を通して、マザー・テレサの言葉や活動の源泉にある神への信仰と愛について学び、キリスト教信仰が目指す神とのかかわり方、人とかかわり方、この世とのかかわり方を考察する。また、学生同士、そして教員との意見交換を通して、現代社会を生きる人々が抱える人間関係の問題を考察し、各自が個人的に研究するためのテーマを見出す。							
達成目標(授業の目的)	マザー・テレサの活動と言葉に関する学びを通して、貧困や争い、病気や孤独など、この世の苦しみと向き合う上でキリスト教的視点を学ぶ。問題がすぐには解決しなくても、信仰や希望を保ち、愛の奉仕に献身することを可能にする力の源泉はどのようなものかを知る。現代社会が抱える問題の中から、各自の研究課題を定め、文献を探す。							
到達目標(学修成果)	①愛と奉仕の実践モデルであるマザー・テレサの活動を根底で支えるキリスト教信仰の理解の仕方やイエスとの人格的にかかわりのあり方についての基礎的知識を得ることができる。 ②人間の宗教的次元を開花させるために不可欠となる内面的成熟の諸要素を意識化し、社会で起こる人間関係上の問題を自分とかかわりの中で考察する視点を持つことができる。 ③各自の研究テーマに即した参考書を選び、その内容を要約し、キリスト教的視点からの考察を加えた上で自分自身の見解を論理的に展開してまとめ、口頭発表することができる。							
評価方法	①テキスト講読のための事前課題の提出(2%×11回=22%) ②意見交換の時の司会(10%)と話し合いへの積極的参加(2%×14回=28%) ③ブックレポート(25%)と発表(15%)							
評価基準	①課題として指示されたテキストの内容を的確に理解した上で、授業での話し合いに備えて自分の見解を、論理的に記述できること。 ②司会を担当する時には、話し合いのためのレジュメを作成し、主題に添った発展的質問を準備した上で話し合いをリードすること。また、質問されたことに答えられること。司会者以外の学生は話し合いが活発に進むよう積極的に発言し意見交換に貢献すること。 ③各自の研究テーマに沿った参考書の内容を的確に要約し、自分の見解を論理的に記述した上で、分かりやすく口頭発表できること。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション、夏休み課題の発表、研究倫理	講義、発表、意見交換、DVD視聴	夏季休暇中の課題発表の準備
2	マザー・テレサの生涯(1) 少女期	講義、意見交換	テキスト①はじめに～p.31を読み意見をまとめる
3	マザー・テレサの生涯(2) 召命と修道生活	講義、意見交換	テキスト①pp.31～58を読み意見をまとめる
4	神の愛の宣教者会の創立	講義、意見交換	テキスト①pp.60～95を読み意見をまとめる
5	神の愛の宣教者会の活動	講義、意見交換	テキスト①pp.96～130を読み意見をまとめる
6	マザー・テレサの生き方の源泉	講義、意見交換	テキスト①pp.132～173を読み意見をまとめる

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	マザー・テレサの真実	講義、意見交換	テキスト①pp.176～219を読み意見をもとめる
8	マザー・テレサと共に（1） 祈り、聞く	講義、意見交換	テキスト②はじめに～p.26を読み意見をもとめる
9	マザー・テレサと共に（2） 話す、見る	講義、意見交換	テキスト②pp.27～46を読み意見をもとめる
10	マザー・テレサと共に（3） ほほ笑む、泣く	講義、意見交換	テキスト②pp.47～66を読み意見をもとめる
11	マザー・テレサと共に（4） 呼吸する、食べる	講義、意見交換	テキスト②pp.67～86を読み意見をもとめる
12	学生発表（1）	発表、意見交換、講評	個人研究に関する発表準備
13	学生発表（2）	発表、意見交換、講評	個人研究に関する発表準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	学生発表（3）	発表、意見交換、講評	個人研究に関する発表準備

テキスト	①和田町子『マザーテレサ』（清水書院） ②片柳弘史『祈るように生きる マザー・テレサと共に』（ドン・ボスコ社）
参考書	ルシンダ・ヴァーディ編・猪熊弘子訳『マザー・テレサ語る』（早川書房） 池上彰『池上彰の宗教がわかれば世界が見える』（文藝春秋）

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	小林 宏子		
開講期	春	開講時限	水4限	研究室	4204	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	キリスト教人間観、解放者イエス、救い、福音、罪、汚れ、聖性、神の似姿、聖母マリア							
授業の概要	福音書に登場する女性たちとイエスとの出会いに注目し、当時の社会において女性たちが背負っていた制度的・宗教的な差別と抑圧から、イエスがどのように解放したのかを考察し、現代社会の中で生きる女性たちが直面する問題や苦しみと関連づけながら、その原因や構造について学び、各自の個人研究の考察を深める。							
達成目標(授業の目的)	「神の似姿」として創造された女性という視点で、キリスト教ヒューマニズムの理解を深める。当時の社会通念に囚われることのないイエスとの出会いがもたらした女性本来の姿とはどのようなものであるかを知り、現代社会が抱える課題を見つける視点を獲得。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト及び聖書箇所を考察を通して、自分の意見をまとめ、発表する力をつける。 ・聖書の時代特有の問題と現代社会にも共通する課題とを見出し、女性が直面する課題について考察する力をつける。話し合いの司会を交替で担当する。 ・個人研究に必要な文献を探して読解し、理解した内容を的確にまとめ、自分の見解を論理的に記述し、口頭表現する力をつける。 							
評価方法	①テキスト及び指定された聖書箇所講読のための事前課題の提出(2%×11回=22%) ②意見交換の時の司会(10%)と話し合いへの積極的参加(2%×14回=28%) ③ブックレポート(25%)と口頭発表(15%)							
評価基準	①課題として指示されたテキストの内容を的確に理解した上で、授業での話し合いに備えて自分の見解を、論理的に記述できること。 ②司会を担当する時には、話し合いのためのレジユメを作成し、主題に添った発展的質問を準備した上で話し合いをリードすること。また、質問されたことに答えられること。司会者以外の学生は話し合いが活発に進むよう積極的に発言し意見交換に貢献すること。 ③各自の研究テーマに沿った参考書の内容を的確に要約し、自分の見解を論理的に記述した上で、分かりやすく口頭発表できること。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション、研究倫理 イエス・キリストの人間観	講義、意見交換	春休みの課題の発表準備
2	神の母聖マリア ご訪問のマリア	講義、意見交換	テキスト pp.1~14, 56~66 を読み意見をまとめる
3	シモン・ペトロの姑 出血症の女	講義、意見交換	テキスト pp.15~28 を読み意見をまとめる
4	サマリアの女	講義、意見交換	テキスト pp.29~37 を読み意見をまとめる
5	姦通罪を犯した女 罪の女と仕える女たち	講義、意見交換	テキスト pp.38~55 を読み意見をまとめる
6	マルタとマリア	講義、意見交換	テキスト pp.65~79 を読み意見をまとめる
7	カナンの女	講義、意見交換	テキスト pp.80~87 を読み意見をまとめる

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	貧しいやもめ 女預言者アンナ	講義、意見交換	テキスト pp.88～102 を読み 意見をまとめる
9	ベタニアのマリア	講義、意見交換	テキスト pp.103～109 を読み 意見をまとめる
10	死刑囚の母	講義、意見交換	テキスト pp.110～116 を読み 意見をまとめる
11	マグダラのマリア	講義、意見交換	テキスト pp.117～120 を読み 意見をまとめる
12	学生発表（1）	発表、意見交換、講評	個人研究に関する発表準備
13	学生発表（2）	発表、意見交換、講評	個人研究に関する発表準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	学生発表（3）	発表、意見交換、講評	個人研究に関する発表準備

テキスト	英 隆一郎『イエスに出会った女性たち』（女子パウロ会）
参考書	ジョルジュエット・ブラキエール著／福岡カルメル会訳『女であることの恵み』（女子パウロ会） 教皇フランシスコ『喜びに喜べ 現代世界における聖性』（カトリック中央協議会）

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	小林 宏子	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4204	オフィスワー P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-④	
キーワード	キリスト教ヒューマニズム、人間の尊厳、人格的存在、神の愛、救い、幸福、希望の根拠						
授業の概要	ゼミナールⅠで学んだイエス・キリストの人間観を土台にしながら、各自が選んだ社会問題に関する研究テーマの考察を深め、ゼミ論文の形にまとめる。途中、各段階での研究成果を報告し、クラス内での議論を経て、各自の研究を発展させてまとめ、研究論文の形に仕上げる。						
達成目標(授業の目的)	キリスト教的人間観における人格存在としての主体的生き方や倫理的行動選択の基準についての理解を踏まえ、日常的な社会経験の中に横たわる人間性を歪める状況や現象を見出し、研究するテーマを設定する。そのテーマに適した参考文献や資料を探して講読し、学生同士の議論を経て、自分の意見を発展させ、論文形式の文章に仕上げる。						
到達目標(学修成果)	①社会現象や人間関係の諸問題をキリスト教人間学の視点から眺め、考察の対象となる課題を設定し、適確な文献や資料を探して研究し、理解した事柄と自分の意見をレジュメを作成して発表することができる。 ②他の学生の発表と資料を批判的に検討し、質問や意見を述べることができる。 ③文献・資料を正しく引用し、脚注付きのゼミ論文を仕上げることができる。						
評価方法	①課題設定、文献・資料検索、3回の中間発表(20%) ②授業内の質疑応答における積極的発言(3%×14回=42%) ③ゼミ論文(38%)						
評価基準	①社会的な事象や人間にかかわる問題についてキリスト教人間学の立場を踏まえて課題設定し、相応しい文献や資料を見つけて理解、研究し、独自の意見を構築することができたか。また、レジュメを作成し論理的、かつ分かりやすい形で中間報告をすることができたか。 ②他者の発表の要点を理解した上で、適切な質問や意見を述べることができたか。 ③A4用紙で8頁以上、参考文献リスト、脚注付きの、論旨が明確なゼミ論を仕上げることができたか。						
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	夏季休暇中の研究進捗状況の報告 研究倫理について	発表、講義、質疑応答、講評	夏休みの研究成果発表準備
2	ゼミ論文の1回目中間報告①	発表、質疑応答、講評	1回目中間報告準備
3	ゼミ論文の1回目中間報告②	発表、質疑応答、講評	1回目中間報告準備
4	ゼミ論文の1回目中間報告③	発表、質疑応答、講評	1回目中間報告準備
5	ゼミ論文の1回目中間報告④	発表、質疑応答、講評	1回目中間報告準備
6	ゼミ論文の2回目中間報告①	発表、質疑応答、講評	2回目中間報告準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	ゼミ論文の2回目中間報告②	発表、質疑応答、講評	2回目中間報告準備
8	ゼミ論文の2回目中間報告③	発表、質疑応答、講評	2回目中間報告準備
9	ゼミ論文の2回目中間報告④	発表、質疑応答、講評	2回目中間報告準備 ゼミ論文の執筆
10	ゼミ論文の3回目中間報告①	発表、質疑応答、講評	3回目中間報告準備 ゼミ論文の執筆
11	ゼミ論文の3回目中間報告②	発表、質疑応答、講評	3回目中間報告準備 ゼミ論文の執筆
12	ゼミ論文の3回目中間報告③	発表、質疑応答、講評	3回目中間報告準備 ゼミ論文の執筆
13	ゼミ論文の3回目中間報告④	発表、質疑応答、講評	3回目中間報告準備 ゼミ論文の提出
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文についての講評と意見交換	講評、意見交換	意見交換のための準備

テキスト	担当教員、及び学生が配布する資料
参考書	大貫隆『聖書の読み方』（岩波新書） 岡田尊司『生きるための哲学』（河出文庫） ヘンリー・クラウド／ジョン・タウンゼント『境界線（バウンダリーズ）』（地引網出版）

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	Thomas	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4211	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-③	
キーワード	Peace, positive peace, negative peace, structural violence, causes of war, peace movements							
授業の概要	This course introduces basic concepts of peace studies and deals with some major issues in today's world. Some of the principal themes in this course are struggle for peace, wellbeing of human beings and sustainability of nature. Students' active participation in discussions, pair work and presentations are required to facilitate active and participatory learning in class. Through these activities, students will develop critical thinking, ability to express their thoughts and opinions, and respect others' opinions.							
達成目標(授業の目的)	Through this course, students will acquire an introductory knowledge of the basic concepts and issues in peace studies. They will also learn the skills to participate in a discussion, to make PowerPoint presentations and take notes in English. Students will also be trained to write a systematic essay separating facts from opinions and following research ethics.							
到達目標(学修成果)	<p>By the end of this course, students should be able to</p> <ul style="list-style-type: none"> • understand the key concepts, history and the basic issues in peace studies • think critically about social and political issues that affect the national and international community • participate in a discussion creatively on topics related to peace studies • write a short research paper related to peace and issues related to peace • read English essays, understand the main points, summarize them and make a clear presentation • improve their knowledge of English vocabulary related to peace studies and world issues 							
評価方法	Class participation (40%), research presentation (30%), final report (30%)							
評価基準	To be distributed at the first class.							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction to teaching materials, class policies, evaluation criteria, and research ethics	Lecture, discussion, Q&A	Buy textbook, read syllabus
2	Unit 1 Education and Gender- education of women in Afghanistan and India	Lecture, group work, discussion, presentation	Answer the questions on preparation sheet (PS)
3	Unit 2 Global Warming – Environmental threats to our planet	Lecture, presentation, discussion	Read Unit 2, do PS, prepare for discussion
4	Unit 3 Drinking Water – water problem in Gaza and water pollution	Lecture, presentation, discussion	Read Unit 3, do PS, prepare for discussion
5	Unit 4 Poverty and Hunger – Child malnutrition in Niger; How to do research	Lecture, presentation, discussion	Read Unit 4, do PS, prepare for discussion
6	Unit 5 Fighting Disease – Malaria and HIV / AIDS; discussing research topic	Lecture, presentation, discussion	Read Unit 5, do PS, prepare for discussion
7	Unit 6 Terrorism – 9/11 Counter Terrorism Strategy; presentation of research topic	Lecture, presentation, discussion	Read Unit 6, do PS, prepare for discussion
8	Unit 9 Genocide and Crimes against Humanity – The Khmer Rouge	Lecture, presentation, discussion	Read Unit 9, do PS, prepare for discussion

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	Unit 10 Landmines – Demining in Afghanistan and Cambodia; essay writing	Lecture, presentation, discussion	Read Unit 10, do PS, prepare for discussion
10	Unit 11 Refugees – Life in a Refugee Camp and International Refugee Law	Lecture, presentation, discussion	Read Unit 11, do PS, prepare for discussion
11	Democracy and human rights in Burma – struggle of the Rohingya people	Lecture, presentation, discussion	Do personal research on the topic, prepare for discussion
12	Research presentation by the students (by half students)	Presentation, Q&A, discussion	Prepare for presentation
13	Research presentation by the students (by the remaining students)	Presentation, Q&A, discussion	Prepare for presentation
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Recap of the course, Reflection time, submission of the final report	Discussion, feedback, Q&A	Prepare the final report, review the semester

テキスト	Keiso Tatsukawa, Walter Davies et al. <i>Global Issues Towards Peace</i> (Nanun-do).
参考書	岡本 三夫、横山 正樹編著『新・平和学の現在 <i>Peace Studies in the Making: A New Edition</i> 』（法律文化社） David P. Barash. <i>Introduction to Peace Studies</i> (Wadsworth Publishing Company).

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	Thomas	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4211	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単 位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-④	
キーワード	Peace, nonviolence, conflict resolution, reconciliation, environmental protection, peace building							
授業の概要	This course introduces fifteen great peacemakers: their life, message and philosophy. It focuses on the following five areas: nonviolence, living peace, honoring diversity, valuing all life, and caring for the planet. Students are expected to study in detail about one of the peacemakers and make a PowerPoint presentation in class. Students are also expected to write a short research thesis on a topic of their choice which is related to peace.							
達成目標 (授業の目的)	The general goals of this course are to introduce various concepts of peace, to learn how peace can be achieved through philosophy, politics, religion, music, social service, education, dialogue, science, literature, sustainable development and environmental protection. Another important goal of this course is to learn the skills to read academic articles, summarize main points and make a PowerPoint presentation. Finally, in this course students will learn to write a short research thesis.							
到達目標 (学修成果)	By the end of this course, students will <ul style="list-style-type: none"> • know different concepts of peace, various ways of building and maintaining peace • be able to write a short research paper on topics related to peace based on research ethics • be able to make a presentation of the result of their research using PowerPoint • be able to participate in a discussion actively 							
評価方法	Class participation (40%), Presentation about a peacemaker (20%), Research paper (40%)							
評価基準	To be distributed at the first class.							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Introduction to the course, class policies, learning materials, and research ethics	lecture, discussion, Q&A	purchase textbook, read syllabus
2	Nonviolence: Nonviolent resistance (Mahatma Gandhi)	lecture, reading, discussion, Q&A	read textbook pp. 11-18, and prepare for discussion
3	Nonviolence: Daring to dream (Martin Luther King, Jr.)	lecture, reading, discussion, Q&A	read textbook pp. 19-26, prepare for discussion
4	Nonviolence: Living deliberately (Henry David Thoreau)	lecture, reading, discussion, Q&A	read textbook pp. 3-10, prepare for discussion
5	Living peace: Living peace (Mother Theresa)	lecture, reading, discussion, Q&A	read textbook pp. 37-44, prepare for discussion
6	Living peace: Being peace (Thich Nhat Hanh)	lecture, reading, discussion, Q&A	read TB pp. 45-52, prepare for discussion
7	Living peace: "Us" refers to all of humankind (Oscar Arias)	lecture, reading, discussion, Q&A	read TB pp. 61-67, prepare for discussion
8	Honoring diversity: Interfaith Harmony (Bruno Hussar)	lecture, reading, discussion, Q&A	read TB pp. 71-78, prepare for discussion
9	Honoring diversity: Universal compassion (The Dalai Lama)	lecture, reading, discussion, Q&A	read TB pp. 95-101, prepare for discussion

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	Valuing all life: Realizing our humanity (Jane Goodall)	lecture, reading, discussion, Q&A	read TB pp. 129-135, prepare for discussion
11	Research presentation by students	presentation, Q&A, discussion	prepare for presentation and discussion
12	Research presentation by students	presentation, Q&A, discussion	prepare for presentation and discussion
13	Research presentation by students	presentation, Q&A, discussion	prepare for presentation and discussion
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Conclusion, reflection time, Submission of research paper	discussion, Q&A	submit research paper

テキスト	Ken Beller, Heather Chase. <i>Great Peacemakers: True Stories from Around the World</i> (LTS Press).
参考書	David P. Barash. <i>Introduction to Peace Studies</i> (Wadsworth Publishing Company).

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	Thomas	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4211	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-④	
キーワード	Peace, negative & positive peace, diplomacy, negotiation, balance of power, deterrence							
授業の概要	This course introduces strategies and theories for preventing wars, and building peace. Specific strategies for building “negative peace” such as diplomacy, negotiations, conflict resolution etc., are dealt with in this course. Means for building “positive peace” such as promotion of human rights, environmental protection, economic well-being, promotion of nonviolence etc., will also be introduced.							
達成目標(授業の目的)	In this course students will mainly focus on the strategies to prevent wars through building positive and negative peace. Students will also do personal research based on research ethics throughout the semester on a topic related to peace which will be submitted as their graduation thesis.							
到達目標(学修成果)	<p>By the end of this course, students will</p> <ul style="list-style-type: none"> • have learned about some strategies for preventing wars and building peace • have developed skills to do an independent research project • be able to participate in a discussion constructively • be able to extract ideas and information by reading books and articles for research • have acquired the skills necessary to make a presentation using PowerPoint effectively 							
評価方法	Class participation (20%), preview sheet (20%), presentation of research result (20%), thesis (40%)							
評価基準	To be distributed at the first class.							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction: course materials and policies; research ethics	lecture, discussion, Q&A	read syllabus
2	Interim research presentation (group 1)	presentation, discussion, Q&A	prepare for presentation
3	Interim research presentation (group 2)	presentation, discussion, Q&A	prepare for presentation
4	Interim research presentation (group 3)	presentation, discussion, Q&A	prepare for presentation
5	Building “Negative Peace”: third-party involvement, negotiating techniques	lecture, reading, discussion, Q&A	read the handout, prepare for discussion
6	Peace through strength: balance of power, collective security, deterrence	lecture, reading, discussion, Q&A	read the handout, prepare for discussion
7	Disarmament and arms control: history of disarmament, arms control etc.	lecture, reading, discussion, Q&A	read the handout, prepare for discussion
8	International organizations: The League of Nations, The United Nations etc.	lecture, reading, discussion, Q&A	read the handout, prepare for discussion
9	International law: enforcement of international law	lecture, reading, discussion, Q&A	read the handout, prepare for discussion
10	War and general ethics, religious support for war	lecture, reading, discussion, Q&A	read the handout, prepare for discussion

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	Research presentation by students (group 1)	presentation, feedback, discussion, Q&A	prepare for presentation
12	Research presentation by students (group 2)	presentation, feedback, discussion, Q&A	prepare for presentation
13	Research presentation by students (group 3)	presentation, feedback, discussion, Q&A	prepare for presentation
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Conclusion, submission of thesis	feedback, discussion, Q&A	Prepare for review of the semester, submit thesis

テキスト	Materials adapted from the following textbook will be used in class. Richard Smoke with Willis Harman. <i>Paths to Peace: Exploring the Feasibility of Sustainable Peace</i> (Institute of Noetic Science Westview Press).
参考書	David P. Barash. <i>Introduction to Peace Studies</i> (Wadsworth Publishing Company).

科目名	SES150: プレ・ゼミナール				担当教員	岩崎 明子		
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4213	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	環境、教育、水問題、貧困、戦争、平和							
授業の概要	この授業では、グローバル・リテラシーの能力を高めながら、グローバル問題に焦点をあてて学習する。SDGs(グローバル・ゴールズ)を取り上げ、地球全体の問題として緊急に考慮すべき優先課題を理解するために、関連する背景知識を教養として身に着ける。また関連記事を英語で読み理解するための英語技能を磨くと同時に、自己の研究課題に必要な資料の検索方法や先行研究を引用しながら論理的に、批判的に考察をまとめ発表できる力を養う。							
達成目標(授業の目的)	グローバル問題に触れながら、問題意識を高め、研究課題の調査・まとめ・発表を行う力を個人研究または共同研究を通して培う。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んだ上で、関連するグローバル問題を独自に調査、まとめ、批判的に考察し、意見を述べる力をつける。 ・英語文献解読と並行して専門書を読み、問題をより深く理解しつつ専門用語を英語と日本語で修得することができるようになる。 ・教材の研究と発表を通し、研究課題の見つけ方や必要な資料の収集方法、研究倫理にもとづくレポートのまとめ方をできるようになる。 							
評価方法	討論への参画とコメントシート(30%)、テキストや輪読教材のレジメ(10%) 中間レポート(10%)、課題レポート(20%) テキストや輪読教材の発表(15%)、中間レポート発表(5%)、末課題発表(10%)							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> *討論への参加：研究発表に対し、課題への問題意識を持ち、積極的に批判的に討議できているか。また各回のコメントシート(CS)に授業の準備と授業後の考察が論理的に書かれているか。 *テキストや輪読教材のレジメ：文献の内容を的確に把握し、専門用語や図表や写真を使用して要点と考察を批判的にまとめることができたか。 *中間・期末レポート：中間と期末レポートは授業で扱ったSDGsテーマと関連するトピックを選び、グローバル問題について研究した関連資料を参照しながら、興味深く、論理的に筋の通ったレポートに仕上げられたか(詳細については初回の授業で説明する) *発表：テキスト内容を理解した上で関連文献の調査によって考察を深め、作成したレジメを効果的に使用した発表ができたか。(中間レポートと期末レポートの発表についての詳細は初回の授業で説明する) 							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	科目導入、授業の進め方、SDGsとは？SDGs時代の教育、担当決め	講義、発表、担当決め	シラバス・プリントを読む
2	共同発表のやり方とレジメの書き方、コメントシート(CS)の書き方、研究倫理	講義、演習、話し合い(PCルーム作業)	Ut.1を読みCSを準備 発表準備
3	Global Issues 1 教育とジェンダー 国際開発論 11章 教育とジェンダー	発表、質疑応答、話し合い、講義	Ut.1のCSに感想を入れ提出 Ut.2を読みCSを準備
4	Global Issues 2 地球温暖化 国際政治学をつかむ 25章 地球環境問題	発表、質疑応答、話し合い、講義	Ut.2のCSに感想を入れ提出 次章のCSを準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
5	Global Issues 3 飲料水の確保 国際開発論 8 章水と衛生	発表、質疑応答、 話し合い、講義	Ut.3 の CS を提出 次章の CS を準備
6	Global Issues 4 貧困と飢餓 国際開発論 4 章飢餓と栄養不足	発表、質疑応答、 話し合い、講義	Ut.4 の CS を提出 次章の CS を準備
7	Global Issues 5 病気との闘い 国際開発論 6 章女性の健康	発表、質疑応答、 話し合い、講義	中間レポート提出 Ut.5 の CS を提出 / 次章を準備
8	Global Issues 6 テロリズム 国際政治学をつかむ 20 章新しい戦争	発表、質疑応答、 話し合い、講義	Ut.6 の CS を提出 次章の CS を準備
9	Global Issues 8 核兵器 国際政治学をつかむ 19 章核	発表、質疑応答、 話し合い、講義	Ut.8 の CS を提出 次章の CS を準備
10	Global Issues 9 カンボジア大量虐殺 国際政治学をつかむ 22 章人権と民主主義	発表、質疑応答、 話し合い、講義	Ut.9 の CS を提出 次章の CS を準備
11	Global Issues 10 地雷撤去 国際政治学をつかむ 21 章紛争解決	発表、質疑応答、 話し合い、講義	Ut.10 の CS を提出 次章の CS を準備
12	Global Issues 11 難民 国際政治学をつかむ 24 章開発援助	発表、質疑応答、 話し合い、講義	Ut.11 の CS を提出 期末課題発表準備
13	期末課題レポートのポスターセッション	1 人 3 回発表、Q&A、 評価シート記入	評価シート提出
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	2 年生ゼミ論文発表への参加	記録、質疑応答	期末課題、評価シート

テキスト	Keiso Tatsukawa, W. Davis, K. Tagashira, G. Yoamamoto, F. Takita 『Global Issues Towards Peace—DVD で学ぶ共存社会—グローバル時代を考える』（南雲堂）
参考書	勝間靖編 『テキスト—国際開発論—貧困を無くすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルバ書房） 村田晃嗣、君塚直隆、他 『国際政治学をつかむ（新版）』（有斐閣） 北村友人他 『SDGs 時代の教育—すべての人に質の高い学びの機会を—』（学文社）

科目名	SES200: ゼミナールI				担当教員	岩崎 明子		
開講期	春	開講時限	水4限	研究室	4213	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	グローバル問題、温暖化、水問題、人権、健康、生物多様性、など							
授業の概要	英文教科書を中心に読み、担当は国際問題の各テーマについて詳細なリサーチ結果をまとめ発表後、クラスディスカッションを通して問題点の考察を深める。参加者全員は取り扱う内容を毎回テーマレポート(TR)にまとめて準備し授業に臨む。中間期までにゼミ論文のテーマ決めと、学期末までに参考資料を利用してゼミ論文の構想を明確にする。							
達成目標(授業の目的)	様々なグローバル問題を理解し考察を深め、発表やディスカッション、まとめをより効果的に行えるように体験的に学ぶ。英文記事の読解によって英語力を伸ばす。リサーチやゼミ論文の構想発表や先行研究のブックレポート作成を通して論文執筆の準備を行う。							
到達目標(学修成果)	授業の準備と参加によって、論理的に発表や意見のまとめが出来るようになる。英文資料読解に慣れ、英語サイトを活用したりリサーチができるようになる。リサーチ方法、論文の書き方を学び、ゼミ論文の構想発表やブックレポートの作成を通し、ゼミ論文の執筆の準備ができるようになる。							
評価方法	①発表とレジメ(30%) ②討論への参加(20%) ③テーマレポートTRとリアクションペーパー(リアペ)(20%) ④ゼミ論文の構想発表(20%) ⑤ブックレポート(10%)							
評価基準	①発表とレジメ: 英文資料の正確な読解と解説ができたか。関連する調査資料をもとに論点に対する考察を加えて内容を準備し、発表のレジメを効果的に使用できたか。質疑応答の準備をし、適切な課題を準備し、討論を効果的に行うことができたか。 ②討論への参加: 研究発表や論点に対し、課題を論理的、批判的に討議できていたか。 ③テーマレポート(TR)とリアクションペーパー(リアペ): 毎回のTRを書くことで、話し合いのための準備ができていたか。リアクションペーパーでは単なる感想に終わらず、授業中の発表や話し合いで得た新しい知識を反映させる形でまとめられたか。 ④ゼミ論文の構想発表: グローバル問題(SDGs 一覧表参照)の自分の研究テーマに沿って収集した先行研究資料を基にどのような構想でゼミ論文を執筆するか明確に発表できたか。 ⑤ブックレポート: ゼミ論文に必要な先行研究から主要な書籍3冊を適切に要約して論点を整理し、意見を論理的に述べているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、リサーチとゼミ論文構想 研究倫理について、担当分け	講義、意見交換	Ut.1 地球温暖化の問題 Good by, Maldives 読み準備
2	Ut.1 地球温暖化の問題 Good by, Maldives, TR (1) プリント	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.1. TR 提出、Ut.2 読み準備 (TR)
3	Ut.3 経済格差: Economic Inequality: the Glowing Gap プリント	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.3 TR 提出、Ut.4 読み準備 (TR)
4	Ut.2 新たな共同体づくりへのチャレンジ Sustainable Communities プリント	発表、意見交換、講義 リアペ	ゼミ論文テーマ提出、Ut.2 TR 提出、Ut.3 読み準備 (TR)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
5	Ut.4 エコツーリズムの挑戦 Dilemmas for a Responsible Tourism プリント	発表、意見交換、講義リアペ	Ut.4 TR 提出、Ut.5 読み準備 (TR)
6	Ut.5 生物多様性から学ぶもの Learning from Nature プリント	発表、意見交換、講義リアペ	Ut.5 TR 提出、Ut.6 読み準備 (TR)
7	Ut.6 水問題：We Can't Live Without Water プリント	発表、意見交換、講義リアペ	Ut.6 TR 提出、Ut.7 読み準備 (TR)
8	Ut.7 世界遺産の保護：Protecting World Heritage プリント	発表、意見交換、講義リアペ	Ut.8 読み準備 (TR)
9	Ut.8 健康と食べ物：The War on Sugar プリント	発表、意見交換、講義リアペ	Ut.8 TR 提出、Ut.9 読み準備 (TR)
10	Ut.9 エネルギー問題：Energy for a Stable Climate プリント	発表、意見交換、講義リアペ	Ut.10 読み準備 (TR)
11	ゼミ論文構想発表 (1) Ut.10 熱帯雨林保護と人権：Yasuni: A Dream of the Future	発表、意見交換、講義リアペ	Ut.10 TR 提出、Ut.11 読み準備 (TR)
12	ゼミ論文構想発表 (2) Ut.11 大農園の生産物：No More Bananas?	発表、意見交換、講義リアペ	Ut.14 読み準備 (TR)
13	ゼミ論文構想発表 (3) Ut.14 非暴力抗議と市民的不服従：When It is Right to Break the Law	期末発表、講義、発表、Q&A、評価	Ut.14 TR 提出
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文構想発表 (4)	講義、発表、Q&A、評価	ブックレポート提出

テキスト	David Peaty, Jun Kawata. <i>Issues That Matter</i> (Kinseido). 小笠原喜康『最新版大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)
参考書	勝間靖編『テキスト—国際開発論—貧困を無くすミレニアム開発目標へのアプローチ』(ミネルバ書房) 村田晃嗣、君塚直隆、他『国際政治学をつかむ (新版)』(有斐閣) 北村友人他『SDGs時代の教育—すべての人に質の高い学びの機会を—』(学文社)
その他 特記事項	発表者は各発表の前日までに必ず指導教員と面接し、発表内容を打ち合わせすること

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	岩崎 明子	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4213	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	ゼミ論文の作成法、研究課題の設定、中間発表、公開発表							
授業の概要	今までに学んだ知識を生かし、自分の関心テーマに従って、ゼミナール論文を作成する。毎回の発表では、発表者が自分の研究成果を発表し、参加者全員で課題を討論する。中間発表およびゼミ終了日にはゼミ論文についての発表をする。							
達成目標(授業の目的)	グローバル問題の中から、選択した自分のテーマをあらゆる角度から研究し、まとめ、発表し、ゼミ論文作成をすることが目的である。教材にはSDGs(Sustainable Development Goals: グローバル・ゴールズ)に関するテーマを扱う。							
到達目標(学修成果)	①先行研究の検討、研究課題の設定、調査、討論をとおして、論文作成に必要な知識と技術を身につける。 ②SDGsの実例を取り上げ、内容を論理的、批判的にまとめ考察し発表することができるようになる。							
評価方法	1)教科書の輪読と発表、レジメ作成(20%) 2)リアクションペーパー提出(30%) 3)ゼミ論文に関わる提出(50%)							
評価基準	1)教科書の輪読と発表、レジメ配布:リサーチをして十分な資料をもとにプレゼンテーションを組み立て、発表のレジメも効果的に作られているか。Q&Aのための準備をして、ゼミ生のディスカッションを効果的に行うことができたか。 2)リアクションペーパー提出:購読内容を予習し、的確な理解によって、授業での討論に貢献できたか。また議論や討論による学びからの考察を反映した内容になっているか。 3)ゼミ論文に関わる提出(初日に配布予定の別紙参照)							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、研究倫理、持続可能な開発目標(SDGs)の全体像	講義、意見交換	教科書2章準備
2	2章、経済開発とSDGsー民間主導のアフリカ経済	発表、意見交換、講義	教科書3章準備、ゼミ論文テーマと要旨と文献表提出
3	3章、ソーシャルビジネスとSDGsーインフラ普及における有効性	発表、意見交換、講義	教科書4章準備
4	4章、都市化とSDGsー都市化の肯定的利用手段としての建築物	発表、意見交換、講義	教科書5章準備、ゼミ論文アウトライン提出
5	5章、環境分野でのSDGsの達成に向けた国際貢献	発表、意見交換、講義	教科書6章準備
6	6章、防災とSDGsーSDGsの礎として	発表、意見交換、講義	教科書7章準備
7	7章、ジェンダーとSDGsー女性のエンパワーメントと障壁	発表、意見交換、講義	教科書8章準備 ゼミ論文1,2章提出
8	8章、社会的保護・社会保障とSDGs拡大する社会的保護/ゼミ論文要旨説明①	発表、意見交換、講義	教科書9章準備 要旨説明準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	9章、すべての人に対する支援とSDGs 不可欠な障害者支援 / ゼミ論文要旨説明②	発表、意見交換、講義	教科書 10 章準備 要旨説明準備
10	10章、観光開発とSDGs—Sustainable Tourism / ゼミ論文要旨説明③	発表、意見交換、講義	教科書 11 章準備 要旨説明準備
11	11章、アフリカの開発とSDGs—SDGs とアフリカ開発銀行の役割	発表、意見交換、講義	教科書 12 章準備 ゼミ論文初稿提出（12月）
12	12章、アフリカにおける農業と技術 13章、マサイコミュニティとSDGs	発表、意見交換、講義	教科書 13 章準備、PPT の用意、ゼミ論文初稿返却
13	ゼミ論文研究発表（1）	発表、Q&A、評価、自己評価	PPT の用意
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文研究発表（2）	発表、Q&A、評価、自己評価	ゼミ論文清書提出（1月）

テキスト	東洋大学国際共生社会研究センター編『持続可能な開発目標と国際貢献—フィールドから見たSDGs—』 小笠原喜康『最新版大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）
参考書	勝間靖編『テキスト—国際開発論—貧困を無くすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルバ書房） 村田晃嗣、君塚直隆、他『国際政治学をつかむ（新版）』（有斐閣） 北村友人他『SDGs時代の教育—すべての人に質の高い学びの機会を—』（学文社）
その他特記事項	9月中旬に夏期合宿を行う。合宿では、UNESCO 資料を使って様々な角度で Children's Right についてのリサーチ内容と、各自のゼミ論文についての構想を PPT で発表する。事情で参加できないゼミ生は、発表を学期初めの授業で行う。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	M. Lupas	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4206	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-③	
キーワード	research ethics, world literature							
授業の概要	Reading opens us to worlds and times different from our immediate surroundings. Five women writers, Sei Shōnagon, Murasaki Shikibu, Helen Keller, Virginia Woolf, and Mother Teresa, will introduce us into their worlds and help us reflect about on our own. Students will read and write book reports about their texts, engage in discussion, and work on a group research presentation about one of the women.							
達成目標(授業の目的)	<p>The course goals are for students to:</p> <ul style="list-style-type: none"> • improve their English skills particularly reading and presentation skills • practice research skills and research ethics • practice critical thinking higher order thinking and skills 							
到達目標(学修成果)	<p>By the end of this semester students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> • read primary texts by 5 women writers and write book reports about them • summarize and reflect on the main points and discussion of each class session • create an organized research presentation using multiple primary and secondary sources • participate in lectures and discussions related to literature 							
評価方法	Participation 14%, Reflection papers 26%, Book reports 30%, Presentation 30%							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> • Participation: active participation in activities • Reflection papers: 13 papers x 2 points each, completed at the end of each class session, summarizing the main points • Book reports: 6 reports x 5 points each, including a description of the characters, summary of the events or main points, and opinion question • Presentation uses both primary and secondary sources, includes the participation of all group members, follows <i>English Essentials</i> guidelines 							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course introduction. Research Ethics Education.	lecture, reflection paper	Review materials distributed in July
2	Sei Shōnagon	lecture, group work, reflection paper	Do book report 1
3	Murasaki Shikibu	lecture, group work, reflection paper	Do book report 2
4	Virginia Woolf	lecture, group work, reflection paper	Do book report 3
5	How to do a group presentation	lecture, reflection paper	Review <i>English Essentials</i> unit 3
6	Helen Keller	lecture, group work, reflection paper	Do book report 4
7	Mother Teresa	lecture, group work, reflection paper	Do book report 5

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	Preparing group presentations	pair work	Research presentation topic
9	Preparing group presentations	pair work	Work on research presentation / book report
10	Preparing group presentations	pair work	Work on research presentation / book report
11	Group presentations	student presentation, group work, discussion	Work on research presentation / book report
12	Group presentations	student presentation, group work, discussion	Work on research presentation / book report
13	Group presentations Book report exchanges	discussion	Do book report 6
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Reviewing students learning goals and coursework during the past semester	discussion, writing	Download and read students portfolio worksheets
テキスト	Original handouts with some of the assigned readings will be distributed by the instructor. Other readings will be put on reserve in the school library.		
参考書	Naughtie, James. <i>Writers : Their Lives and Works</i> (DK Publishers, 2018). Puchner, Martin, et al. <i>The Norton Anthology of World Literature</i> . Shorter 4th ed, 2 vols. (Norton 2019). <i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>		

科目名	SES200: ゼミナール I				担当教員	M. Lupas	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4206	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	必修	単 位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				3-④, 4-④	
キーワード	world literature, research, research ethics						
授業の概要	Reading opens us to worlds and times different from our immediate surroundings. Five women writers, Sei Shōnagon, Murasaki Shikibu, Helen Keller, Virginia Woolf, and Mother Teresa, will introduce us into their worlds and help us reflect about on our own. Students will read and evaluate secondary sources about the original texts, engage in discussion, and work on a group research presentation about one of the women.						
達成目標 (授業の目的)	The course goals are for students to: <ul style="list-style-type: none"> • improve their English skills particularly reading and presentation skills • practice research skills and research ethics • practice critical thinking higher order thinking and skills 						
到達目標 (学修成果)	By the end of this semester students will be able to: <ul style="list-style-type: none"> • read secondary sources about 5 women writers and summarize the main points • summarize and reflect on the main points and discussion of each class session • create an organized research presentation using multiple primary and secondary sources • participate in lectures and discussions related to literature 						
評価方法	Participation 14%, Reflection papers 26%, Summaries 30%, Presentation 30%						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> • Participation: active participation in activities • Reflection papers: 13 papers x 2 points each, completed at the end of each class session, summarizing the main points • Summaries: 6 summaries x 5 points each, including a summary of the main points, and opinion question • Presentation: uses both primary and secondary sources, includes the participation of all group members, follows <i>English Essentials</i> guidelines 						
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Course introduction. Research Ethics Education.	Lecture, group work	Review materials distributed in January
2	Sei Shōnagon	Lecture, group work	Do summary 1
3	Murasaki Shikibu	Lecture, group work	Do summary 2
4	Virginia Woolf	Lecture, group work	Do summary 3
5	How to find secondary sources for world literature	Lecture, pair work	Review <i>English Essentials</i> unit 3
6	Helen Keller	Lecture, group work	Do summary 4
7	Mother Teresa	Lecture, group work	Do summary 5

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	Preparing group presentations	Group work	Research presentation topic
9	Preparing group presentations	Group work	Work on research presentation / summary
10	Preparing group presentations	Group work	Work on research presentation / summary
11	Group presentations	Presentations, Q&A	Work on research presentation / summary
12	Group presentations	Presentations, Q&A	Work on research presentation / summary
13	Group presentations	Presentations, Q&A	Do summary 6
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Reviewing students learning goals and coursework during the past semester	Lecture, group work	Download and read students portfolio worksheets
テキスト	Original handouts with some of the assigned readings will be distributed by the instructor. Other readings will be put on reserve in the school library.		

科目名	SES300: ゼミナールⅡ				担当教員	M. Lupas	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4206	オフィスワー P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				3-④, 4-④	
キーワード	graduation thesis, world literature, research						
授業の概要	In this class, students will go more deeply into a topic that interests them. They will pick suitable sources about the topic and shape their study of the topic using a research question or thesis. They will share about their research findings both orally and in writing and produce a final written graduation thesis of several pages in English.						
達成目標(授業の目的)	This course aims to help student become autonomous learners who can evaluate sources and express their interests and ideas in dialogue with the world around them and the available body of knowledge.						
到達目標(学修成果)	By the end of this course, students should be able to: <ul style="list-style-type: none"> • find suitable sources on a given topic and summarize them in a book report • express themselves orally about their research interests and about suitable materials for gathering information about a research topic • write a continuous and organized text on a research topic. 						
評価方法	Participation 20%, Book reports 20%, Graduation thesis 35%, Presentations 25%						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> • Participation: active participation in activities • Book reports: 5 reports x 4 points each • Graduation thesis: submission of an outline and preliminary thesis or research question (5 points), timely submission of a first draft (10 points), final version of graduation thesis evaluated on organization, quality and number of sources, language, and meeting page length requirement (20 points) • Presentations are about the graduation thesis and uses both primary and secondary sources, and follows <i>English Essentials</i> guidelines 						
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Research Ethics Education. Short research topic presentations	Lecture, group work, presentations	Prepare update on your research topic
2	Sharing book report 1. Seminar support group.	Presentations, Q&A	Prepare book report 1
3	Sharing book report 2. Seminar support group.	Presentations, Q&A	Prepare book report 2
4	Sharing book report 3. Seminar support group.	Presentations, Q&A	Prepare book report 3
5	Short Presentation 1 about your research topic	Presentations, Q&A	Prepare presentation
6	Short Presentation 1 about your research topic	Presentations, Q&A	Prepare presentation
7	Sharing book report 4.	Presentations, Q&A	Prepare book report 4
8	Sharing book report 5.	Presentations, Q&A	Prepare book report 5

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	Writing the title and introduction	Lecture, pair work	Write draft of graduation thesis
10	Writing the conclusion	Lecture, pair work	Review class handouts
11	Final presentations	Presentations, whole class discussion	Prepare presentation and finish writing graduation thesis
12	Final presentations	Presentations, whole class discussion	Prepare presentation and finish writing graduation thesis
13	Final presentations	Presentations, whole class discussion	Prepare presentation and finish writing graduation thesis
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Reviewing students learning goals and coursework during the past semester	Group work, in-class writing	Download and read students portfolio worksheets
テキスト	None. Students will choose their own books and article to read based on their individual research topic.		